



令和 5 年度
第 2 回 足立区政に関する世論調査
(小規模調査)
調査報告書

《プラスチック分別回収について》

足立区 政策経営部 区政情報課

令和 6 年 3 月発行

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の時期	3
3 今回の区政モニター数、一般抽出者数、回答者数	3
4 モデル実施地域について	3
5 回答者の構成と属性	4
6 報告書の見方	8
第2章 調査結果の5つのポイント及び今後の方針	9
第3章 調査結果の詳細	21
1 家庭ごみを出している場所	25
2 ごみ・資源の分別に悩んだ際に参考にするもの	27
3 プラスチック分別回収のモデル実施開始の認知度	29
4 プラスチック分別回収のモデル実施を知ったきっかけ	32
5 区からの情報発信の時期	33
6 区からの情報発信の回数	34
7 区からの情報発信の内容	35
8 プラスチックの分別回収についての情報発信の内容	36
9 ごみの収集日やプラスチック分別方法などの周知方法	39
10 プラスチックを分別することについて、良いと思う事柄	41
11 プラスチックを分別することについて、良くないと思う事柄	42
12 プラスチックを分別できる程度	43
13 知っている「プラスチック」に分別すべき品目	45
14 減ると思う燃やすごみの量	46
15 プラスチックを分別できないと思う理由	47
16 分別ルールを徹底するために必要だと思う対策	48
17 ごみ出しに関することについてのご意見・ご要望	49
18 アンケートの実施が区政の改善につながるかの考え	50
第4章 調査票	51

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和6年4月からプラスチックの分別回収が開始される地域（千住・小台・宮城・新田）にお住まいの方を対象に、分別に関する意識について調査し、資源回収事業の促進を図ることを目的に実施いたしました。

2 調査の時期

令和5年12月15日（金）～令和6年1月12日（金）

3 今回の区政モニター数、一般抽出者数、回答者数

	標本数	回答者数 (回答率)	回答方法	
			郵送回答	インターネット回答
対象者全数	1,200人	657人 (54.8%)	402人 (61.2%)	255人 (38.8%)
一般抽出者	1,000人	467人 (46.7%)	359人 (76.9%)	108人 (23.1%)
区政モニター数	200人	190人 (95.0%)	43人 (22.6%)	147人 (77.4%)

※一般抽出者：千住・小台・宮城・新田地域在住の18歳以上の個人

4 モデル実施地域について

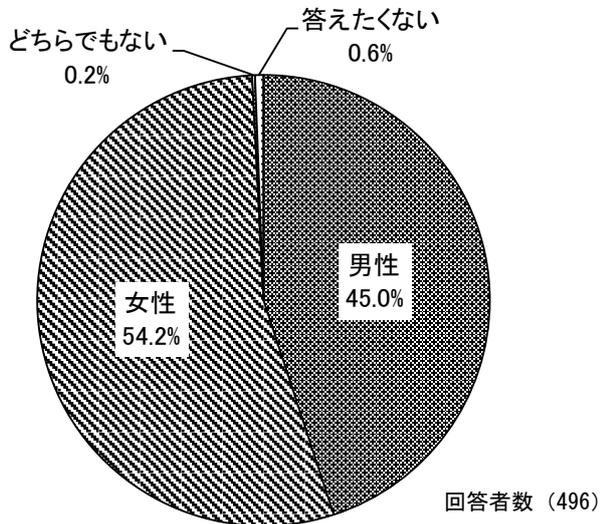
モデル実施地域とは、令和6年4月からプラスチック分別回収が開始される千住・小台・宮城・新田地域のことで、以下、報告書内で集計している「モデル実施地域」は、一般抽出者及び当該地域在住の区政モニター（29人）を含みます。

5 回答者の構成と属性

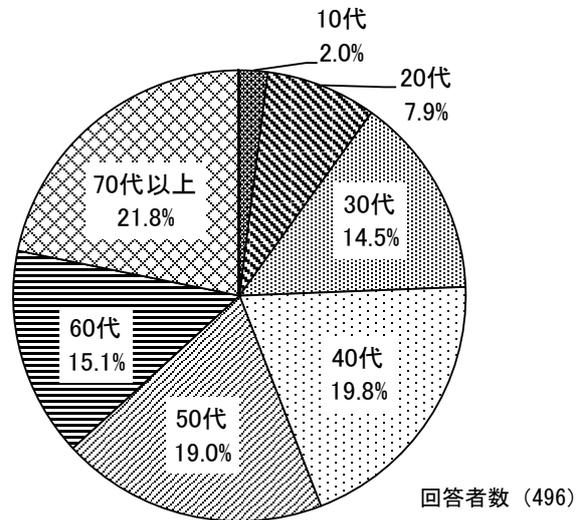
(1) 性別、年代別割合

【モデル実施地域】

<性別>

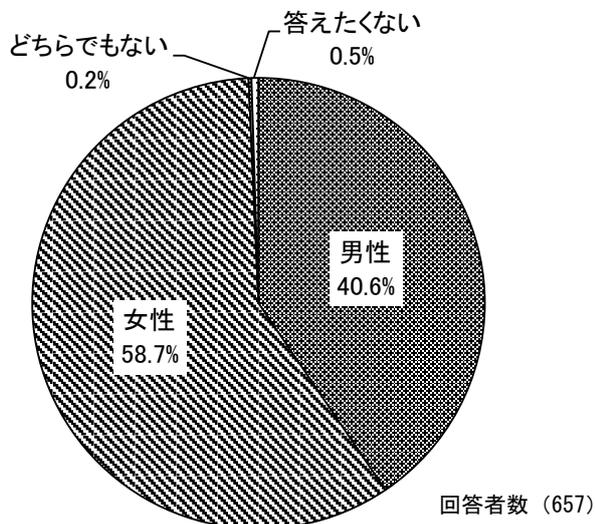


<年代>

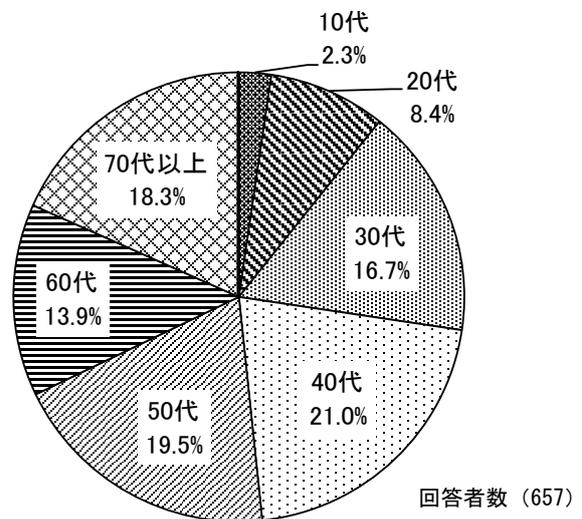


【回答者全体】

<性別>



<年代>



(2) 地域別人数

【モデル実施地域】

	人数	割合
全体	496	100.0%
千住	369	74.4%
小台・宮城	55	11.1%
新田	66	13.3%
その他	-	-
無回答	6	1.2%

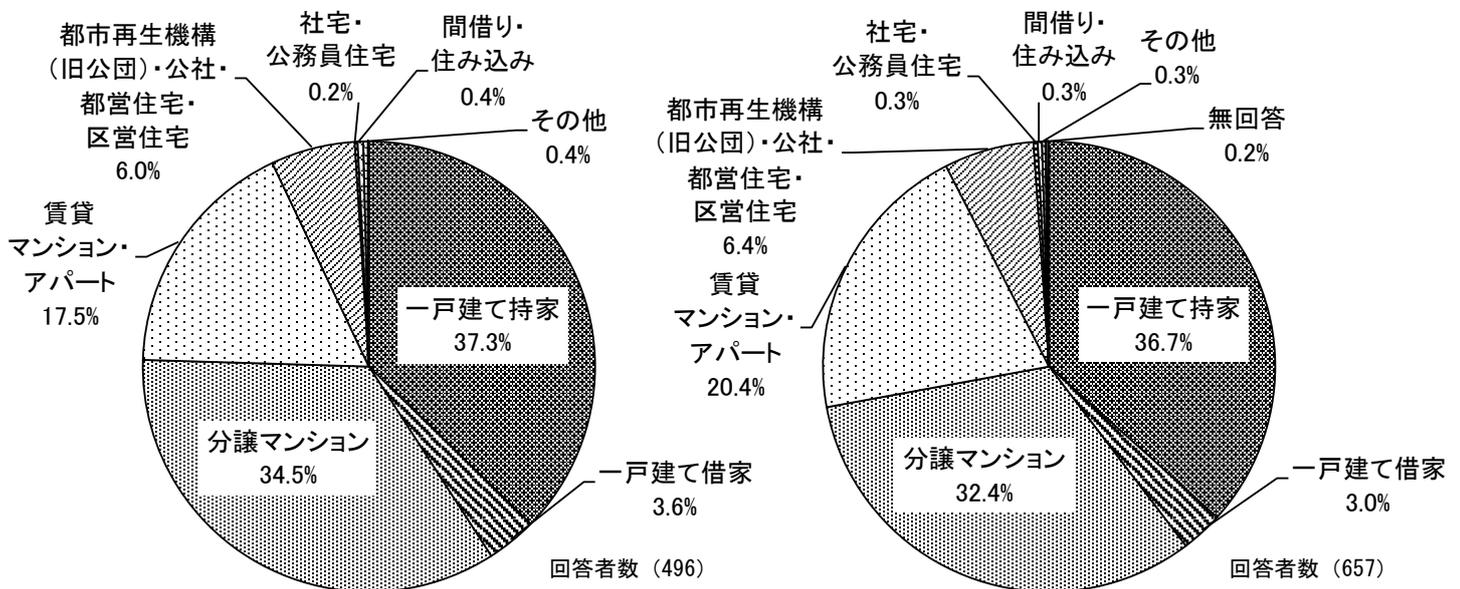
【回答者全体】

	人数	割合
全体	657	100.0%
千住	369	56.2%
小台・宮城	55	8.4%
新田	66	10.0%
その他	161	24.5%
無回答	6	0.9%

(3) 住居形態

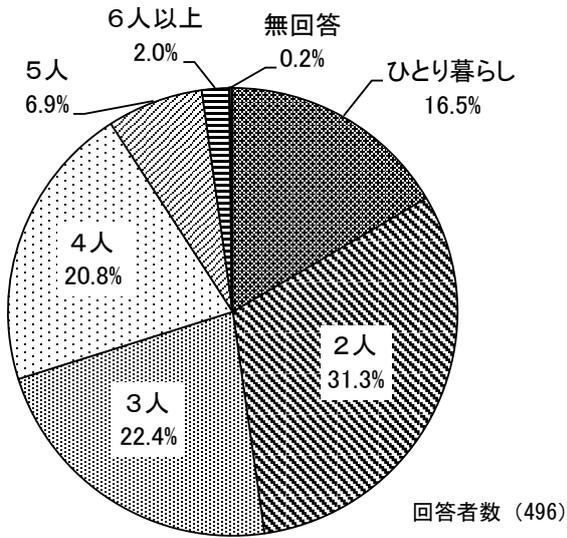
【モデル実施地域】

【回答者全体】

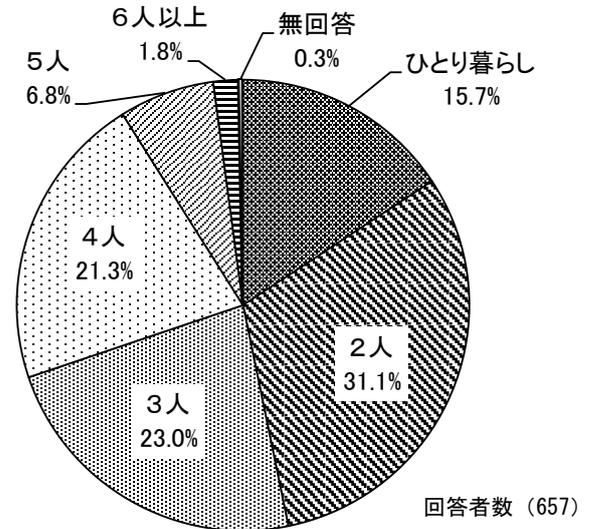


(4) 同居家族の人数

【モデル実施地域】

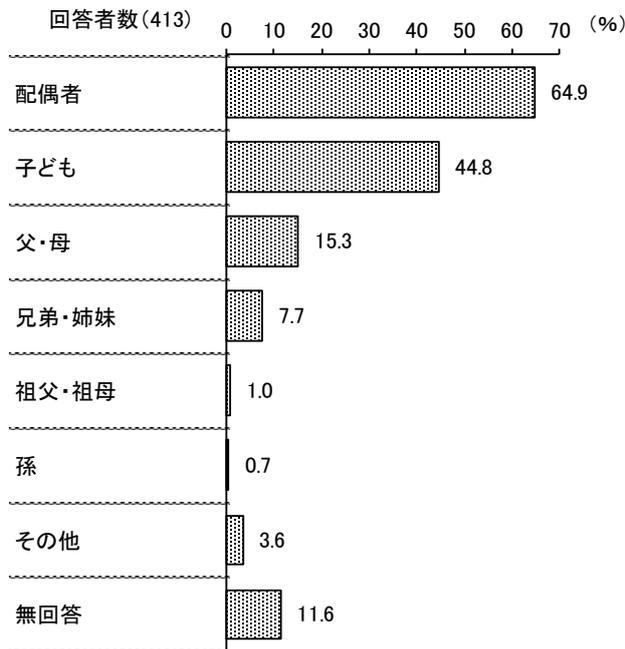


【回答者全体】

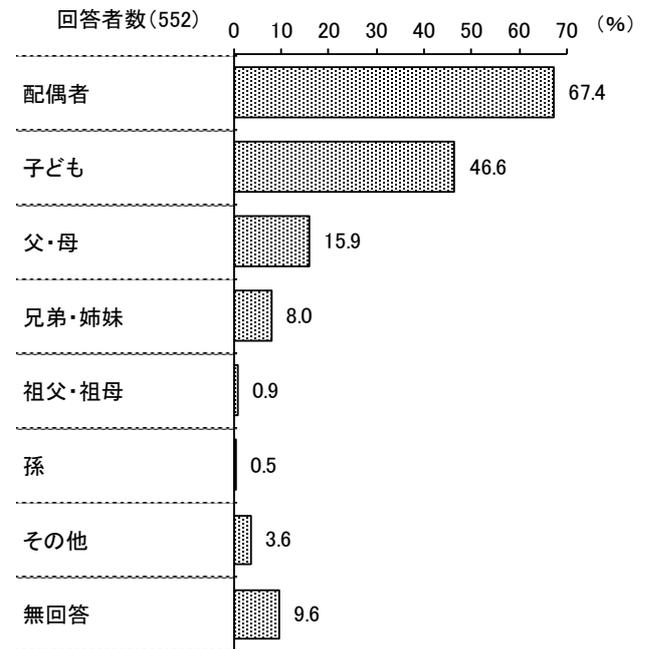


(5) 同居家族

【モデル実施地域】

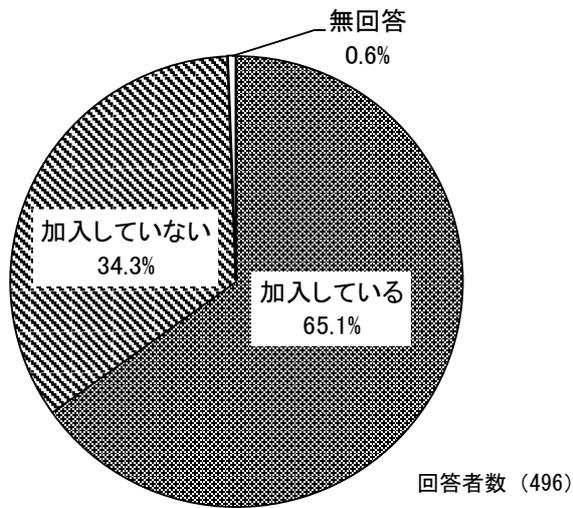


【回答者全体】

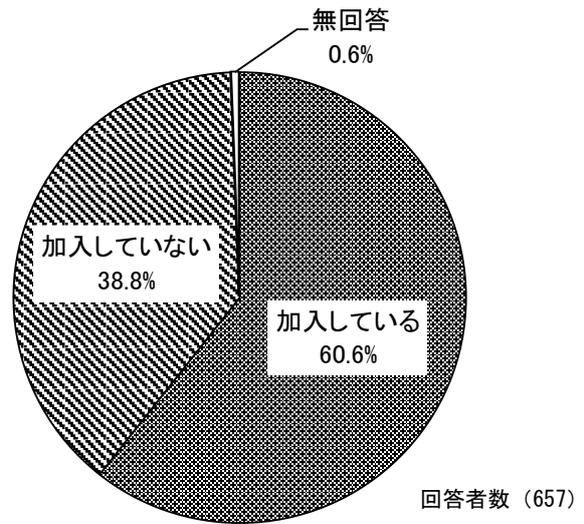


(6) 町会・自治会の加入状況

【モデル実施地域】



【回答者全体】



6 報告書の見方

- (1) 回答比率(%)は、その設問の回答者を基礎として算出しました。小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで示したもので、比率の合計が100.0%に満たない、または上回る場合があります。
- (2) 複数回答の設問は、すべて比率を合計すると100.0%を上回る場合があります。
- (3) 本報告書のグラフ表記について、前問の回答に応じて回答者を限定している該当設問において、回答者数が100人に満たない場合は、「年代別」や「年代層別」のグラフは割愛して、全体結果のみの表記と分析としております。
- (4) 本報告書のクロス集計(性別、性年代別、地域別、同居家族の人数別等)については、一般抽出者及びプラスチック分別回収モデル実施地域在住の区政モニターからの回答について分析しております。

第2章 調査結果の5つのポイント 及び今後の方針

《調査結果の5つのポイント》

- 1 5割以上が「手間が増える」を分別回収のデメリットに挙げた
- 2 全体の66.3%がモデル実施を「知らない」と回答し、若年層（18～30歳代）では「知らない」が80%を超えた（※令和5年5月のあだち広報での周知から約7か月後の調査）
- 3 住居別のモデル実施を「知っている」割合は、分譲マンションが25.1%、賃貸マンション・アパートが16.1%で、一戸建て持家（50.8%）の半分以下だった
- 4 町会・自治会加入者がモデル実施を知っている割合（42.1%）は非加入者（15.9%）の3倍近かった
- 5 区からの情報発信について、「わかりやすい」は17.0%に留まり、回数も「足りない」が47.3%だった

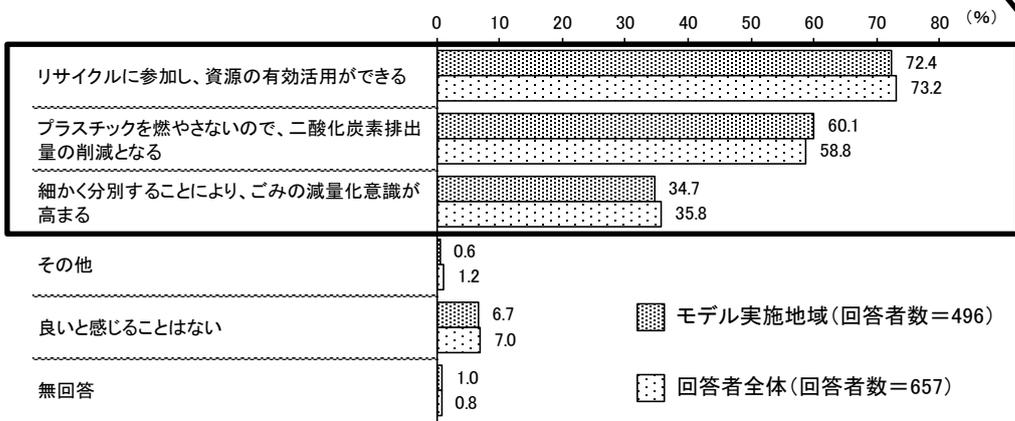
1 調査結果の5つのポイント

(1) 5割以上が「手間が増える」を分別回収のデメリットに挙げた

「あなたがプラスチックを分別することについて、良いと思う事柄を選んでください」と尋ねたところ、「リサイクルに参加し、資源の有効活用ができる」(72.4%)、「プラスチックを燃やさないので、二酸化炭素排出量の削減となる」(60.1%)、「細かく分別することにより、ごみの減量化意識が高まる」(34.7%)の順に割合が大きかった。

多くの人が分別回収に賛同

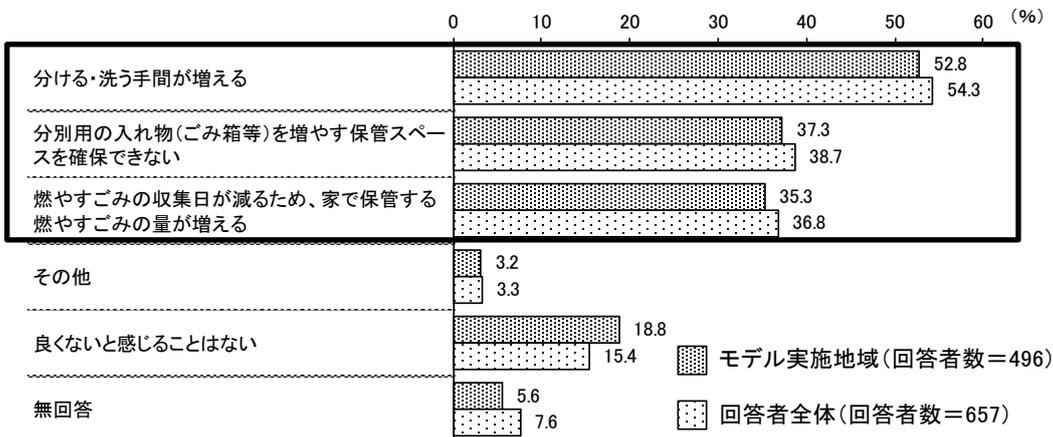
【プラスチック分別について良いと思うこと】



「あなたがプラスチックを分別することについて、良くないと思う事柄を選んでください」と尋ねたところ、「分ける・洗う手間が増える」(52.8%)、「分別用の入れ物(ごみ箱等)を増やす保管スペースを確保できない」(37.3%)、「燃やすごみの収集日が減るため、家で保管する燃やすごみの量が増える」(35.3)の順に割合が大きかった。

分別の手間を心配する人が多い → 行動変容に繋げるため、分別回収の理解を促進する必要がある

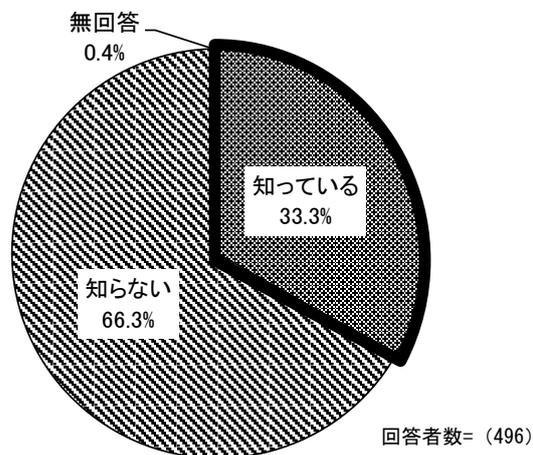
【プラスチック分別について良くないと思うこと】



(2) 全体の66.3%がモデル実施を「知らない」と回答し、若年層（18～30歳代）では「知らない」が80%を超えた

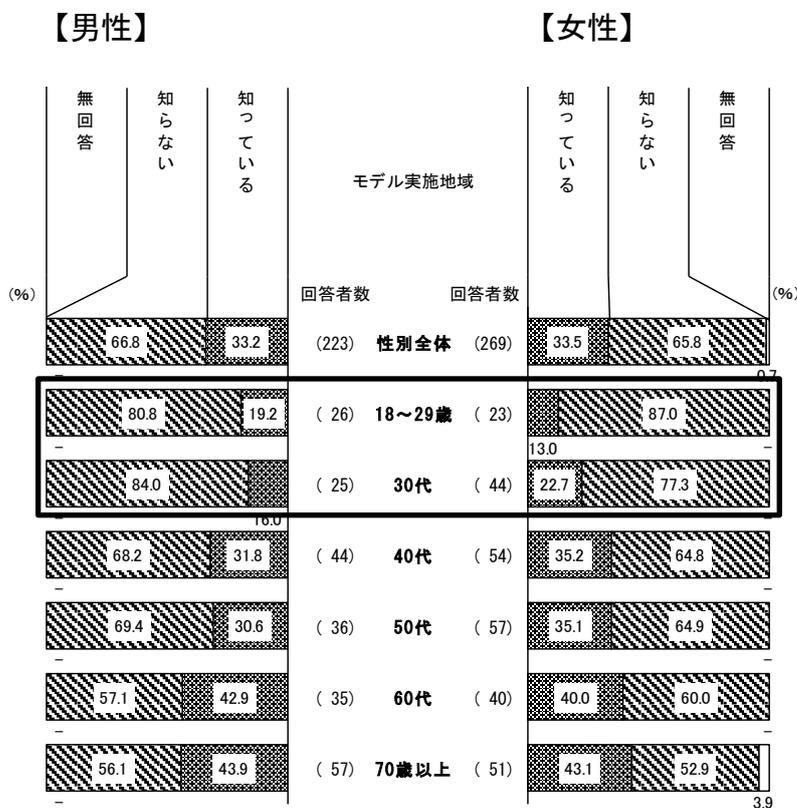
モデル実施地域でも、プラスチック分別回収の開始を「知らない」と答えた人が66.3%であった。

【プラスチック分別回収モデル実施の認知度】



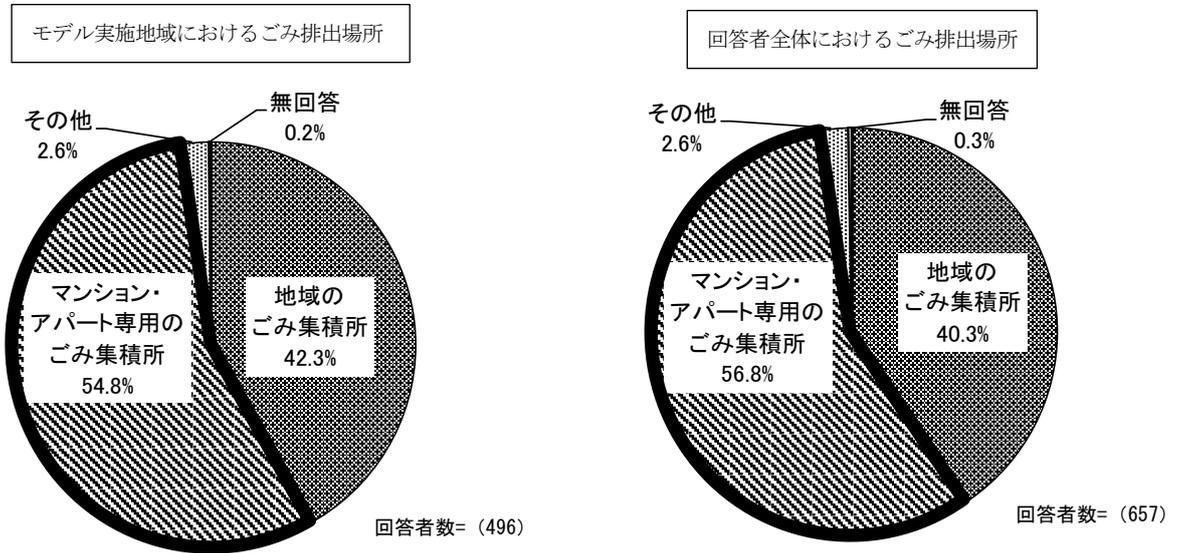
モデル実施地域での若年層（18歳～30歳代）において「プラスチック分別回収のモデル実施開始を知らない」と回答する方が80%を超えている。

【性別・性年代別のプラスチック分別回収モデル実施の認知度】



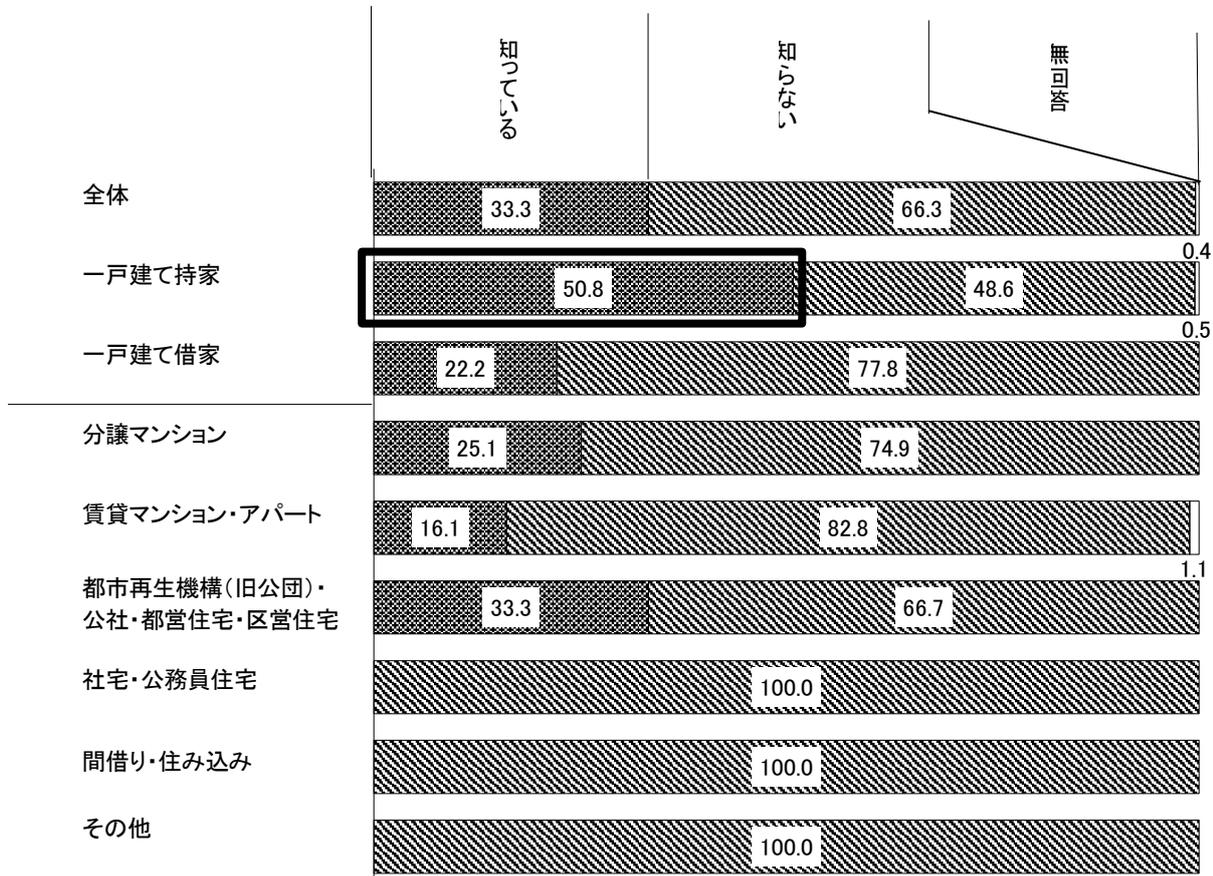
(3) 住居別のモデル実施を「知っている」割合は、分譲マンションが25.1%、賃貸マンション・アパートが16.1%で、一戸建て持家(50.8%)の半分以下だった

回答者の過半数がマンション・アパート専用のごみ集積所を利用している。



プラスチック回収のモデル開始の認知度を住居形態別に比較すると、一戸建て持家(50.8%)が最も高く、集合住宅(分譲マンション25.1%、賃貸マンション16.1%)は低い。

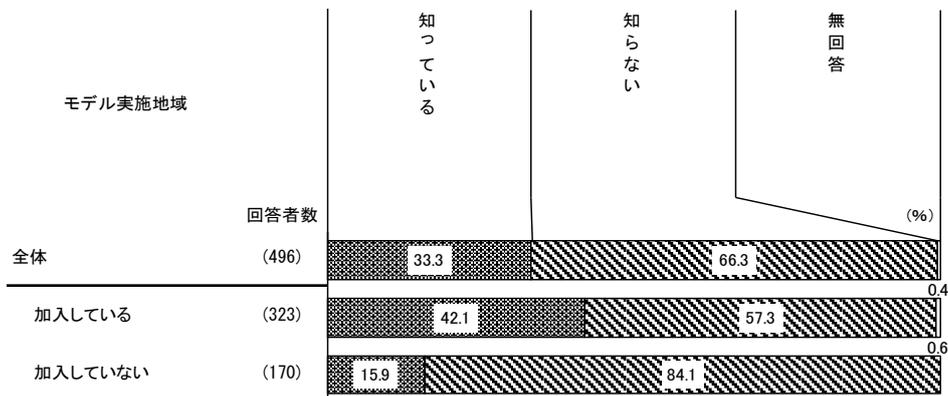
【住居形態別のプラスチック分別回収モデル実施認知度 (%)】



(4) 町会・自治会加入者がモデル実施を知っている割合 (42.1%) は非加入者 (15.9%) の3倍近かった

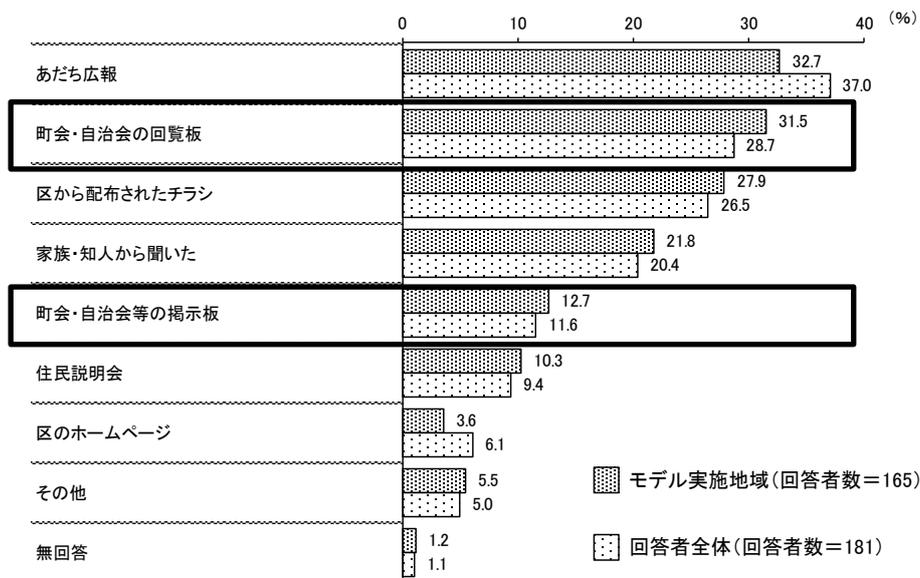
分別回収のモデル実施を知っている割合は、町会・自治会に加入している人 (42.1%) が加入していない人 (15.9%) より 26.2 ポイント高かった。

【町会・自治会の加入別のプラスチック分別回収モデル実施の認知度】



プラスチック回収のモデル実施が開始されることを「知っている」と答えた人に、知ったきっかけを聞いたところ、「町会・自治会の回覧板」が2番目 (31.5%) に、「町会・自治会の掲示板」が5番目 (12.7%) に多かった。また、周知方法の希望においても、「町会・自治会の回覧板・掲示板で知らせてほしい」が3番目 (44.2%) に多かった。

【プラスチック分別回収モデル実施を知ったきっかけ】



- ① 町会・自治会加入者の知っている割合が多い
- ② 町会・自治会経由で知った・知らせてほしい

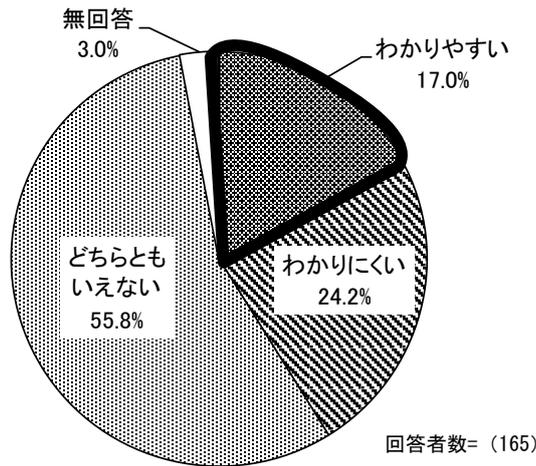


町会・自治会を通じた周知が有効

(5) 区からの情報発信について、「わかりやすい」は17.0%に留まり、回数も「足りない」が47.3%だった

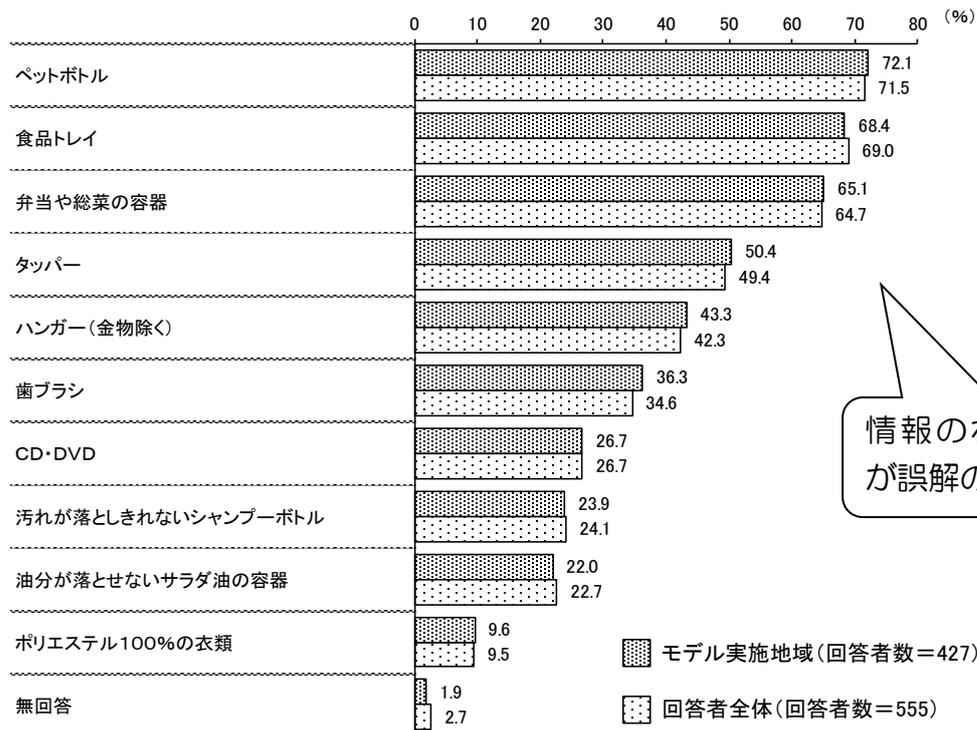
プラスチックの分別回収モデル実施の情報発信の内容について「わかりにくい」(24.2%)が「わかりやすい」(17.0%)を上回っている。また、区からの情報発信の回数については「足りない」との回答が47.3%で最多だった。

【区からの情報発信の内容のわかりやすさ】



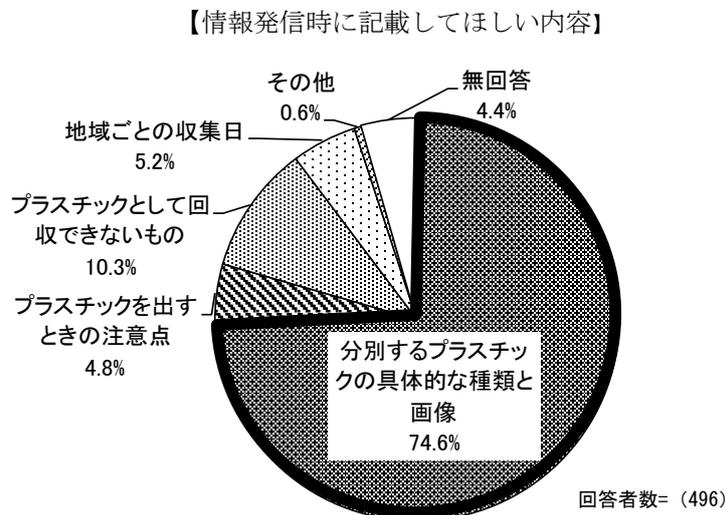
「汚れが落としきれないシャンプーボトル」を23.9%が、「油分が落とせないサラダ油の容器」を22.0%が、「ポリエステル100%の衣類」を9.6%がプラスチックに分別した。これらはどれもプラスチックとして排出できず、誤りである。

【プラスチックに分別すべき品目として知っているもの】



情報のわかりにくさが誤解の一因か

プラスチックの分別回収について情報発信記載してほしい内容として、「分別するプラスチックの具体的な種類と画像」(74.6%)が最も多く、そのほかには「プラスチックとして回収できないもの」、「プラスチックを出すときの注意点」などが挙げられている。



ごみ資源の分別に悩んだ時の参考にするものとして、「資源・ごみの出し方リーフレット」が各世代において最上位となった。区民周知において大事な手段であることから、全戸配布を予定している。2番目として「インターネットで検索」が挙げられており、特に20歳代が46.2%、30歳代が63.9%、40歳代が53.1%と高くなっている。

2 分別回収を全区内で行うに当たっての今後の方針

(1) 情報発信の受け手に合わせた改善

ア 町会・自治会を通じた周知活動をより効果的に

現状	
<p>① モデル実施地域で、「プラスチック分別回収のモデル実施開始」(モデル実施)を「知らない」と答えた人が66.3%であった。</p> <p>② 町会・自治会の加入率は、10～30代が39.7%、40歳代が56.1%、50歳代が74.5%、60歳代が76.0%、70歳代以上が86.1%である。</p> <p>③ モデル実施を「知っている」のは町会・自治会に加入している人(42.1%)が加入していない人(15.9%)より26.2ポイント高くなっている。</p>	
課題	今後の取り組み
<p>① モデル実施について十分な認知を得られていない。</p>	<p>① 町会・自治会のネットワークを活かした住民周知活動を推進するため、町会・自治会役員と事前協議を行い、住民説明会の日時・場所・内容等についての要望を伺い調整をしていく。</p>
<p>② 町会・自治会加入者はモデル実施を知っている割合が比較的高く、また、40代以上の年齢層では、町会・自治会に加入している割合が高いことから、町会・自治会を通じた周知が有効と考えられるものの、より効果的に行う必要がある。</p>	<p>② 住民説明会において、お知り合いの区民へ資料を手渡すお約束をしていた参加者に、その場で景品(紙製水切り袋セットなど)を渡すことで、参加者以外への周知を拡大する。</p>

イ 若年層への周知

現状	
<p>① 若年層(18歳～30歳代)では、モデル実施を「知らない」と回答する人が80%を超えている。</p>	
課題	今後の取り組み
<p>① 若年層(18歳～30歳代)の認知度が低い。</p>	<p>① 若年層が集まる駅周辺地域や区施設においてポスター掲示を行う。(デジタルサイネージや民間施設掲示板等の利用を検討)</p> <p>② ホームページやSNSでの定期的な情報発信を行う。</p> <p>③ オンライン申請システムを利用し、「プラ分別クイズ」に回答すると抽選で景品(クオカードなど)がもらえるイベントを実施する。このイベントをSNS等で発信するとともに、チラシ・ポスターにQRコードを掲載する。</p>

ウ 分譲・賃貸マンションの居住者への周知

現状	
<p>① マンション・アパート専用のごみ集積所を利用する人 (54.8%) が、地域のごみ集積所を利用する人 (42.3%) を上回っている。</p> <p>② モデル実施の認知度を住居形態別に比較すると、一戸建て持家が 50.8% で最も高く、分譲マンションは 25.1%、賃貸マンションは 16.1% と低くなっている。</p>	
課題	今後の取り組み
<p>① 分譲・賃貸マンションの居住者の認知度が低い。</p>	<p>① 大・中規模集合住宅の自治会又は管理組合・管理会社へ働きかけ住民説明会の開催や看板・ビラの掲示など各集合住宅の状況に合わせた周知を進めていく。</p>

(2) 情報発信の内容と方法

ア 行動に繋がるような理解の促進

現状	
<p>① プラスチックを分別することについて良いと思う事柄として、「リサイクルに参加し、資源の有効活用ができる」(72.4%)、「プラスチックを燃やさないので、二酸化炭素排出量の削減となる」(60.1%)、「細かく分別することにより、ごみの減量化意識が高まる」(34.7%) が選ばれた。</p> <p>② プラスチックの分別回収について良くないと思う事柄に、「分ける・洗う手間が増える」(52.8%)、「分別用の入れ物(ごみ箱等)を増やす保管スペースを確保できない」(37.3%)、「燃やすごみの収集日が減るため、家で保管する燃やすごみの量が増える」(35.3) が挙げられている。</p>	
課題	今後の取り組み
<p>① 行動変容へ繋なげるには、プラスチックをリサイクルすることによりCO₂削減が進み、環境問題への解決に繋がることを丁寧に説明し、区民の理解を促進していく必要がある。</p>	<p>① 住民説明会は、区民の不満や不安を受け止める機会として質疑応答の時間を十分に設け、理解と協力をいただいでいく。またその内容をQ&A一覧として次の住民説明会で資料として配布し、区ホームページにも掲出する。</p> <p>② 全区展開に向け、モデル実施の住民説明会で使用した「プラスチックリサイクルの事業展開や意義」を説明するパワーポイント映像を、全区展開の内容へ変更するとともに、わかりやすく説得力のある表現の動画に作り変え、住民説明会で上映していく。</p> <p>③ 全区展開への周知の際は、区民のリサイクル意識を促進するため、モデル実施におけるリサイクル量やCO₂削減量など「見える成果」をあだち広報や区ホームページで公表していく。</p>

イ 画像等によるわかりやすい分別の説明

現状	
<p>① プラスチックの分別回収モデル実施の情報発信の内容について「わかりにくい」(24.2%)が「わかりやすい」(17.0%)を上回っている。</p> <p>② 「汚れが落としきれないシャンプーボトル」を23.9%が、「油分が落とせないサラダ油の容器」を22.0%が、「ポリエステル100%の衣類」を9.6%がプラスチックに分別した。これらはどれもプラスチックとして排出できず、認識の誤りである。</p> <p>③ プラスチックの分別回収について情報発信する際にわかりやすくなる内容として、「分別するプラスチックの具体的な種類と画像」(74.6%)が最も多く、「プラスチックとして回収できないもの」、「プラスチックを出すときの注意点」なども上位に挙げられている。</p> <p>④ ごみ資源の分別に悩んだ時の参考にするものとして、「資源・ごみの出し方リーフレット」が61.7%で最も多かった。2番目として「インターネットで検索」が挙げられており、特に20歳代では46.2%、30歳代では63.9%、40歳代では53.1%と高い。</p>	
課題	今後の取り組み
<p>① 住民説明会においても、品目ごとの分別に関する質問が多く寄せられている。分別について十分な理解を得られていないことから、情報発信の内容をよりわかりやすくする必要がある。</p>	<p>① あだち広報の記事、全戸配布するリーフレット・チラシ、住民説明会の資料等は、モデル実施における検証を踏まえ、令和6年度中に具体的な品目ごとの分別の仕方を掲載したわかりやすい表現に変更する。特に汚れがとりづらいプラスチック製品などの取扱いについての判断基準を丁寧に説明していく。</p> <p>② モデル実施の住民説明会において、多く質問をいただいた「ごみ・資源の正しい排出ができない外国人住民への対応」など新たな課題へは速やかに対応策を検討し質問者に回答するとともに、次の住民説明会資料に盛り込むなど、常に最新の質疑の情報に更新していく。</p>
<p>② プラスチックに分別できるもの、できないもの、プラスチックを排出するときの注意点を、画像を用いて説明することが求められている。</p>	<p>① 住民説明会の質疑応答の時間において、分別に迷う製品の実物を提示して説明するなど効果を上げていく。</p>

(3) 情報発信の時期と回数

ア 説明会の告知と時期

現状	
① モデル実施地域での住民周知においては、1年前から町会・自治会長への挨拶・説明、半年前と直前の2回に渡って住民説明会を実施したが、延べ1,500名の参加に留まった。	
課題	今後の取り組み
① 説明会の集客が十分でない。住民説明会の開催告知が直前となるなど課題があった。	① 計画的に住民説明会を告知・実施する。 ② 住民説明会を運営するチームを複数編成し、担当地域を分けて別々に動くことで、開催日時の集中に対応し効率的な周知を行う。 ③ 住民説明会の告知を、町会・自治会の回覧板・掲示板で行う場合は周知期間に余裕を持たせて実施する。

イ 多様な情報発信による回数の増加

現状	
① 情報発信の回数について「足りない」との回答が47.3%に上った。	
課題	今後の取り組み
① 様々な方法を検討し、情報発信の回数を増やす必要がある。	① 周知期間にチラシ又はあだち広報特集号を2回以上全戸配布する。 ② 地域ごとの住民説明会について、令和6年度末、令和7年10月、令和7年度末の計3クールの開催期間を設定する。また町会・自治会や集合住宅管理組合などが主催する説明会へも出前講座として伺う。 ③ 町会・自治会会長への説明を令和6年度の早い時期に行い、各会単独の開催数を増やしていく。 ④ PTAなど構成年齢等が違う団体との連携やケーブルテレビ等の活用も検討していく。

第3章 調査結果の詳細

設問体系と回答の概要

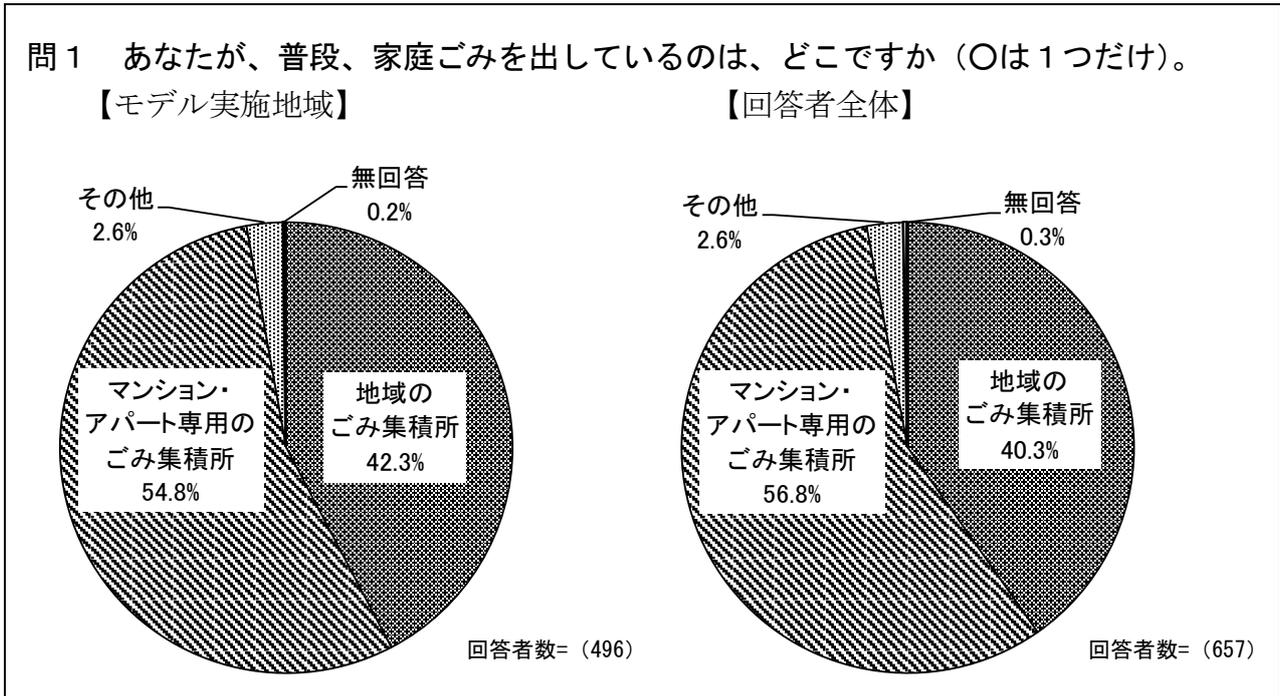
回答の構成比はモデル実施地域の数値となります。

- 1 家庭ごみを出している場所** P25
- (1) 「マンション・アパート専用のごみ集積所」 54.8% (回答者全体：56.8%)
- (2) 「地域のごみ集積所」 42.3% (回答者全体：40.3%)
- 2 ごみ・資源の分別に悩んだ際に参考にするもの** P27
- (1) 『「資源の出し方、ごみの出し方」リーフレット』 61.7% (回答者全体：62.1%)
- (2) 「インターネットで検索」 36.5% (回答者全体：40.5%)
- 3 プラスチック分別回収のモデル実施開始の認知度** P29
- (1) 「知らない」 66.3% (回答者全体：72.1%)
- (2) 「知っている」 33.3% (回答者全体：27.5%)
- 4 プラスチック分別回収のモデル実施を知ったきっかけ** P32
- (1) 「あだち広報」 32.7% (回答者全体：37.0%)
- (2) 「町会・自治会の回覧板」 31.5% (回答者全体：28.7%)
- 5 区からの情報発信の時期** P33
- (1) 「ちょうどよい」 57.0% (回答者全体：59.7%)
- (2) 「早すぎる」 7.3% (回答者全体：6.6%)
- (3) 「わからない」 28.5% (回答者全体：26.5%)
- 6 区からの情報発信の回数** P34
- (1) 「足りない」 47.3% (回答者全体：45.9%)
- (2) 「ちょうどよい」 29.7% (回答者全体：31.5%)
- 7 区からの情報発信の内容** P35
- (1) 「わかりにくい」 24.2% (回答者全体：23.2%)
- (2) 「わかりやすい」 17.0% (回答者全体：20.4%)
- (3) 「どちらともいえない」 55.8% (回答者全体：53.6%)
- 8 プラスチックの分別回収についての情報発信の内容** P36
- (1) 「分別するプラスチックの具体的な種類と画像」 74.6% (回答者全体：74.6%)
- (2) 「プラスチックとして回収できないもの」 10.3% (回答者全体：11.7%)
- 9 ごみの収集日やプラスチック分別方法などの周知方法** P39
- (1) 「分別方法などを記載したリーフレットを配布してほしい」 60.1% (回答者全体：59.4%)
- (2) 「ごみ集積所に分別方法を掲載した掲示物を掲示してほしい」 45.8%
(回答者全体：46.9%)

- 10 プラスチックを分別することについて、良いと思う事柄** P41
- (1) 「リサイクルに参加し、資源の有効活用ができる」 72.4% (回答者全体 : 73.2%)
- (2) 「プラスチックを燃やさないので、二酸化炭素排出量の削減となる」 60.1%
(回答者全体 : 58.8%)
- 11 プラスチックを分別することについて、良くないと思う事柄** P42
- (1) 「分ける・洗う手間が増える」 52.8% (回答者全体 : 54.3%)
- (2) 「分別用の入れ物 (ごみ箱等) を増やす保管スペースを確保できない」 37.3%
(回答者全体 : 38.7%)
- 12 プラスチックを分別できる程度** P43
- (1) 「ある程度分別できると思う」 57.7% (回答者全体 : 55.7%)
- (2) 「ほぼ分別できると思う」 28.4% (回答者全体 : 28.8%)
- 13 知っている「プラスチック」に分別すべき品目** P45
- (1) 「ペットボトル」 72.1% (回答者全体 : 71.5%)
- (2) 「食品トレイ」 68.4% (回答者全体 : 69.0%)
- 14 減ると思う燃やすごみの量** P46
- (1) 「3～4割減ると思う」 28.6% (回答者全体 : 29.5%)
- (2) 「1～2割減ると思う」 25.8% (回答者全体 : 25.2%)
- 15 プラスチックを分別できないと思う理由** P47
- (1) 「分別に手間がかかり、面倒だから」 71.9% (回答者全体 : 67.8%)
- (2) 「分別方法がよくわからないから」 63.2% (回答者全体 : 59.8%)
- 16 分別ルールを徹底するために必要だと思う対策** P48
- (1) 「分別方法を詳しく記載したリーフレットを配布する」 67.5% (回答者全体 : 67.3%)
- (2) 「ごみ集積所に分別方法を記載したポスターを掲示する」 65.7% (回答者全体 : 65.0%)
- 17 ごみ出しに関することについてのご意見・ご要望** P49
- (1) 「分別等ルールの周知・啓発」 65件 (回答者全体 : 90件)
- (2) 「分別のあり方、賛否」 46件 (回答者全体 : 66件)
- 18 アンケートの実施が区政の改善につながるかの考え** P50
- (1) 「区政の改善につながると思う (計)」 80.1% (回答者全体 : 81.4%)
- (2) 「区政の改善につながらないと思う (計)」 8.8% (回答者全体 : 8.7%)

1 家庭ごみを出している場所

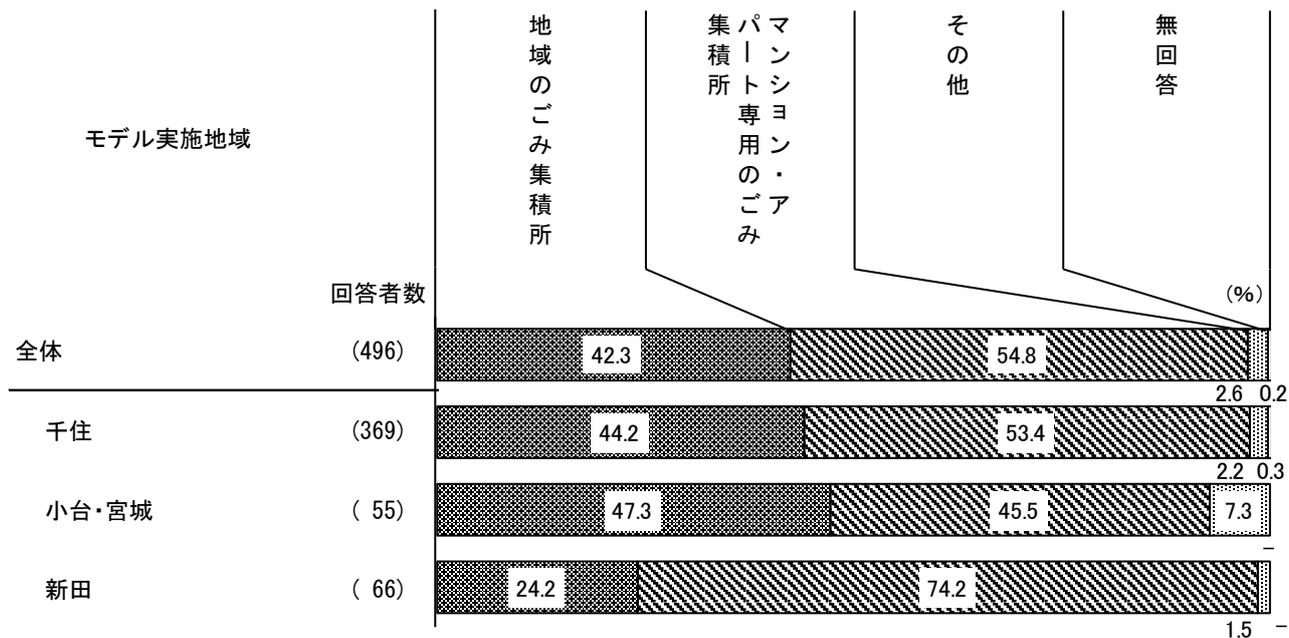
(1) 単純集計



家庭ごみを出している場所は、モデル実施地域の回答では「マンション・アパート専用のごみ集積所」が54.8%で、「地域のごみ集積所」は42.3%となっています。

その他の地域を含めた回答者全体の回答では「マンション・アパート専用のごみ集積所」が56.8%で、「地域のごみ集積所」は40.3%となっています。

(2) クロス集計・地域別／家庭ごみを出している場所

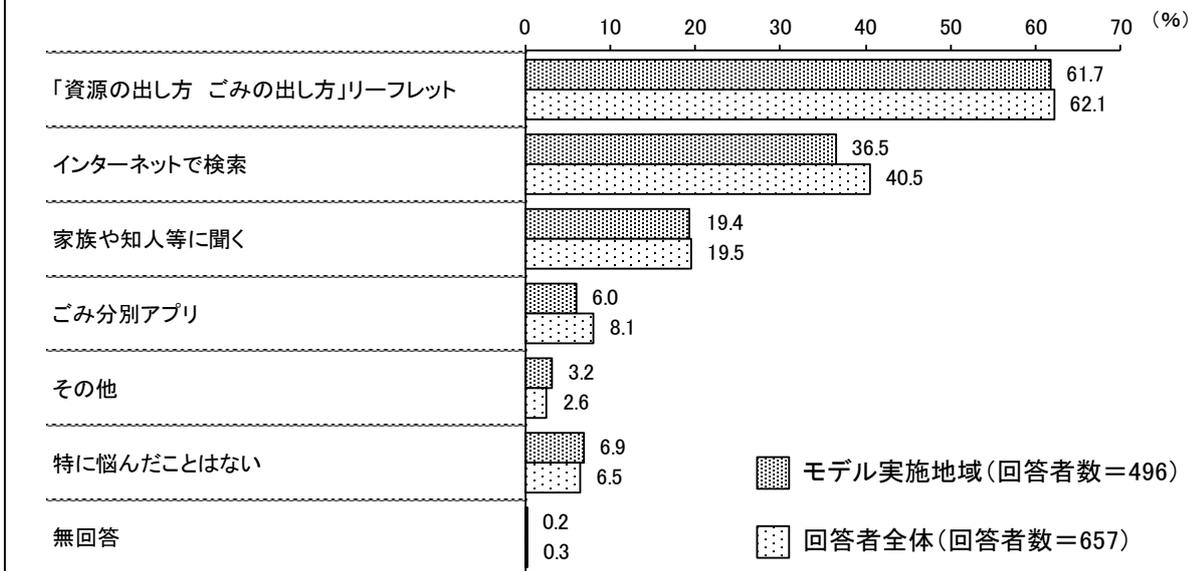


家庭ごみを出している場所をモデル実施地域の地域別にみると、「マンション・アパート専用のごみ集積所」は新田地域（74.2%）で高くなっています。

2 ごみ・資源の分別に悩んだ際に参考にするもの

(1) 単純集計

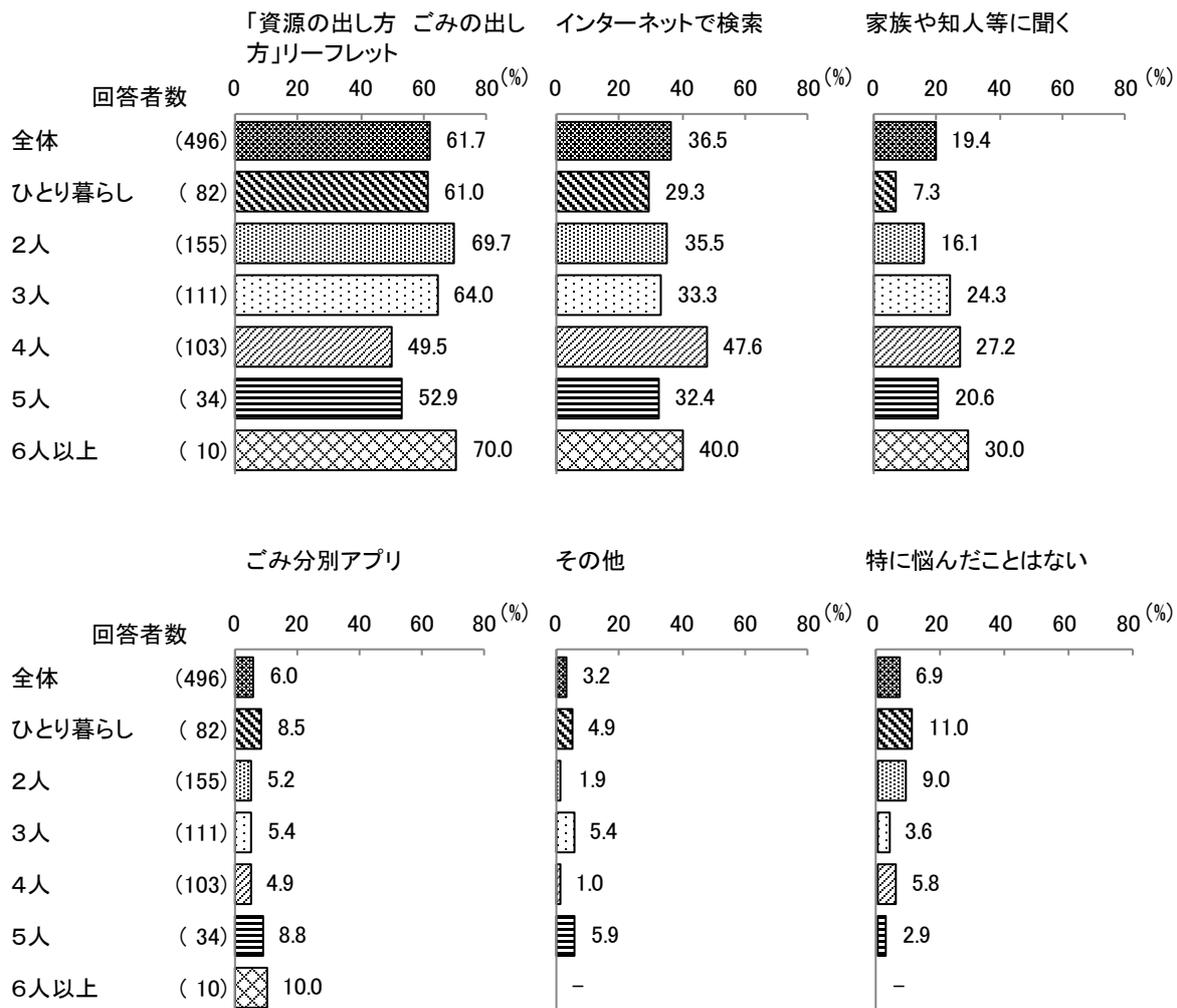
問2 あなたは、ごみ・資源の分別に悩んだ際、何を参考にしていますか
(○はあてはまるものすべて)。



ごみ・資源の分別に悩んだ際に参考にするものについては、モデル実施地域の回答では「『資源の出し方、ごみの出し方』リーフレット」が61.7%で最も高く、次いで「インターネットで検索」(36.5%)、「家族や知人等に聞く」(19.4%)、「特に悩んだことはない」(6.9%)などとなっています。

その他の地域を含めた回答者全体の回答では「『資源の出し方、ごみの出し方』リーフレット」が62.1%で最も高く、次いで「インターネットで検索」(40.5%)、「家族や知人等に聞く」(19.5%)、「ごみ分別アプリ」(8.1%)などとなっています。

(2) クロス集計・同居家族の人数別／ごみ・資源の分別に悩んだ際に参考にするもの



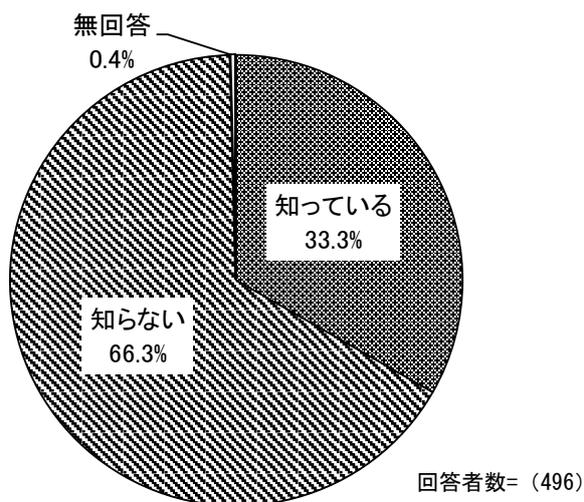
ごみ・資源の分別に悩んだ際に参考にするものを同居家族の人数別にみると、「インターネットで検索」は4人（47.6%）で他と比べて特に高くなっています。

3 プラスチック分別回収のモデル実施開始の認知度

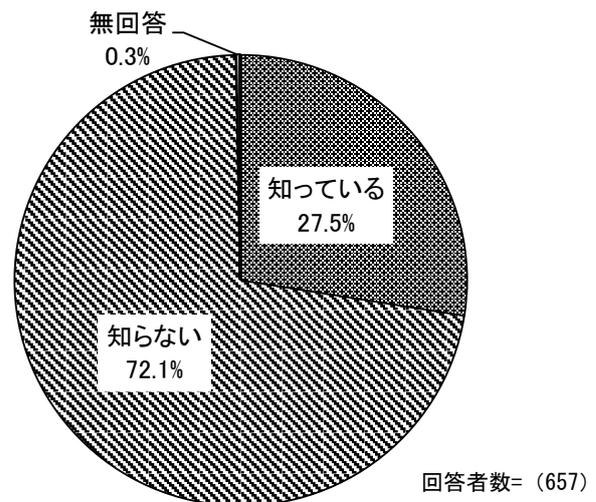
(1) 単純集計

問3 あなたは、令和6年4月から、千住・小台・宮城・新田の4地域でプラスチック分別回収のモデル実施が開始されることを知っていますか（○は1つだけ）。

【モデル実施地域】



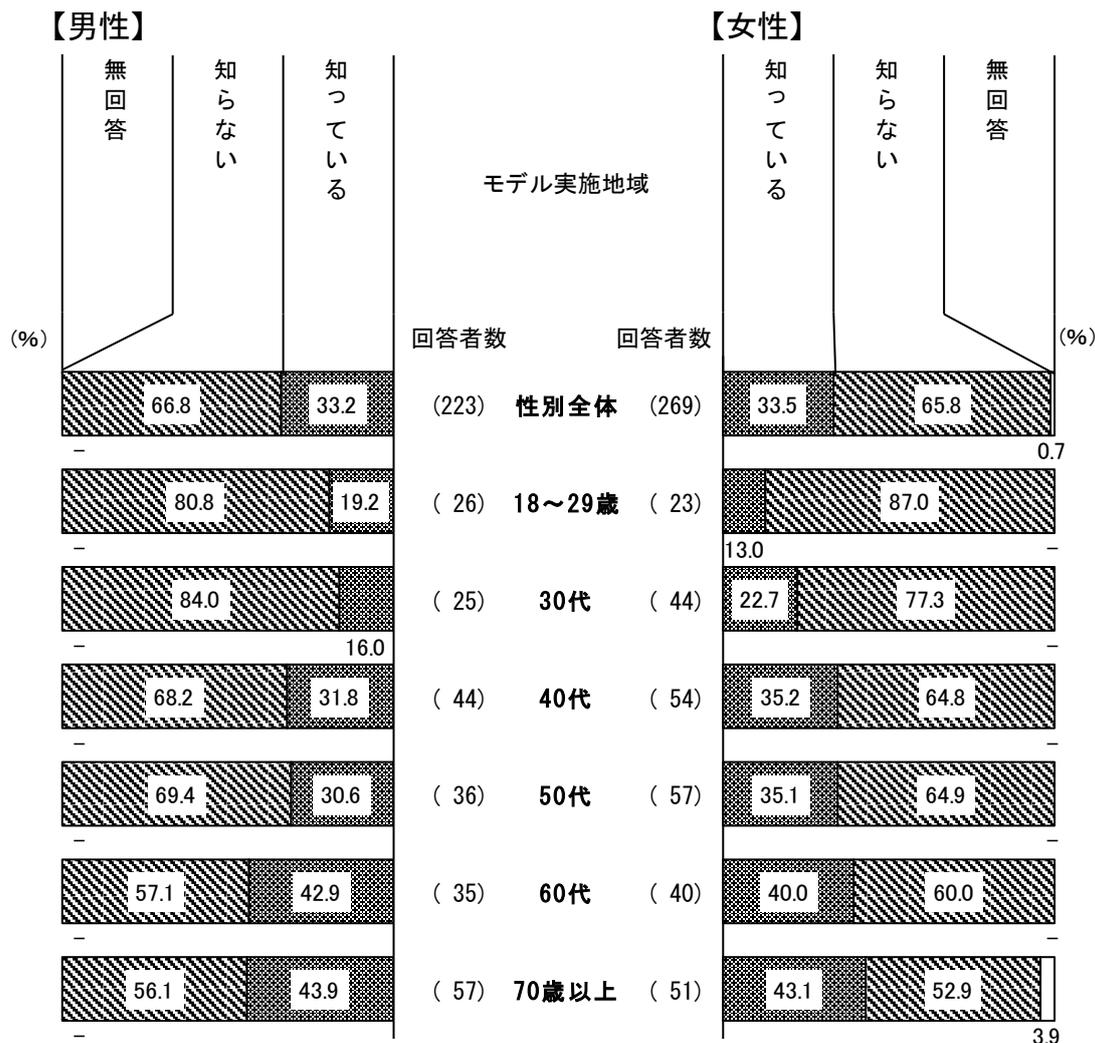
【回答者全体】



プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることの認知度は、モデル実施地域の回答では「知っている」が33.3%で、「知らない」は66.3%となっています。

その他の地域を含めた回答者全体の回答では「知っている」が27.5%で、「知らない」は72.1%となっています。

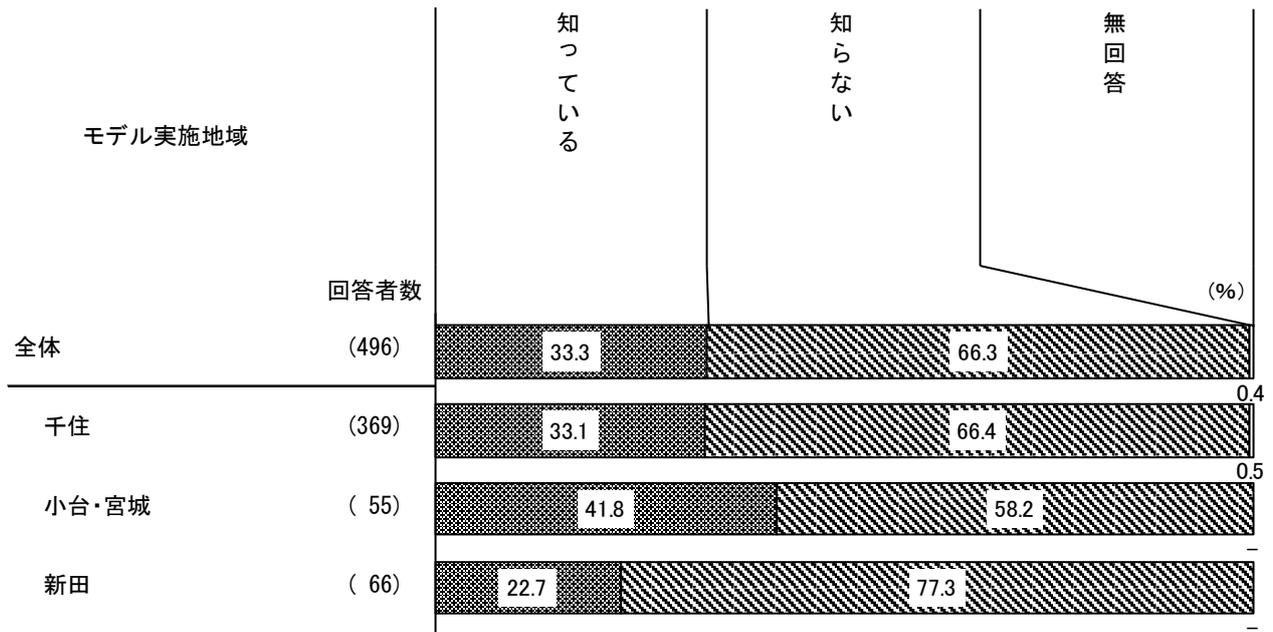
(2) クロス集計・性別・性年代別／プラスチック分別回収のモデル実施開始の認知度



プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることの認知度を性別にみると、「知っている」は女性（33.5%）の方が男性（33.2%）より0.3ポイント高くなっています。

いくつかの年代でサンプル数が30を下回っているため、あくまで参考値にとどめる必要がありますが、性年代別にみると、女性では「知っている」はほぼ年代が高くなるにつれて、割合が高くなっています。

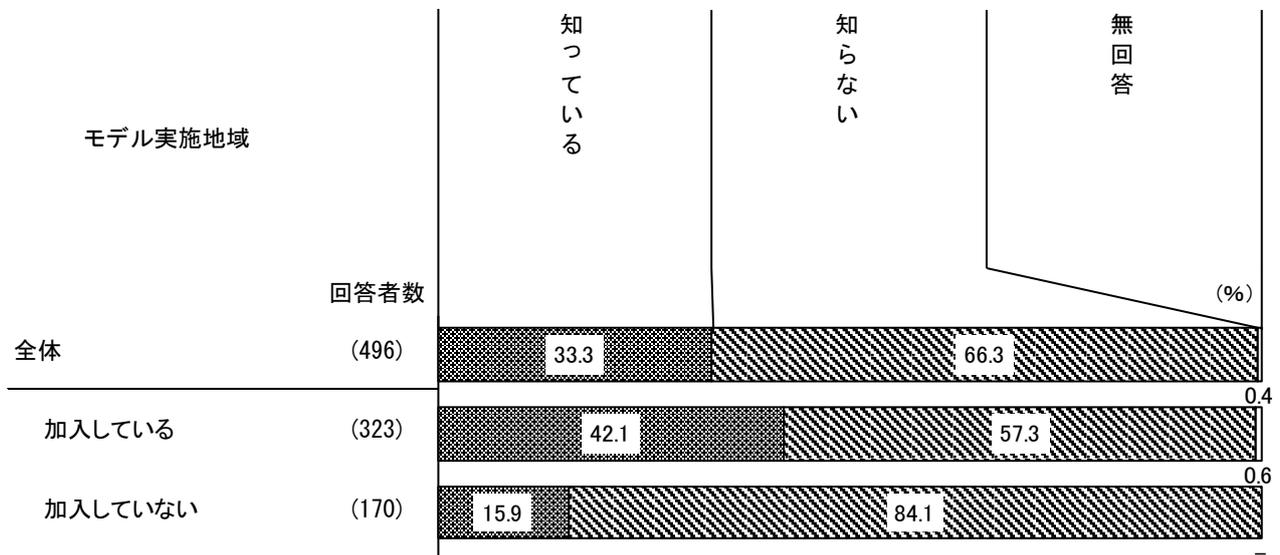
(3) クロス集計・地域別／プラスチック分別回収のモデル実施開始の認知度



プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることの認知度をモデル実施地域の地域別にみると、「知っている」は小台・宮城地域（41.8%）で高くなっています。

(4) クロス集計・町会、自治会の加入状況別

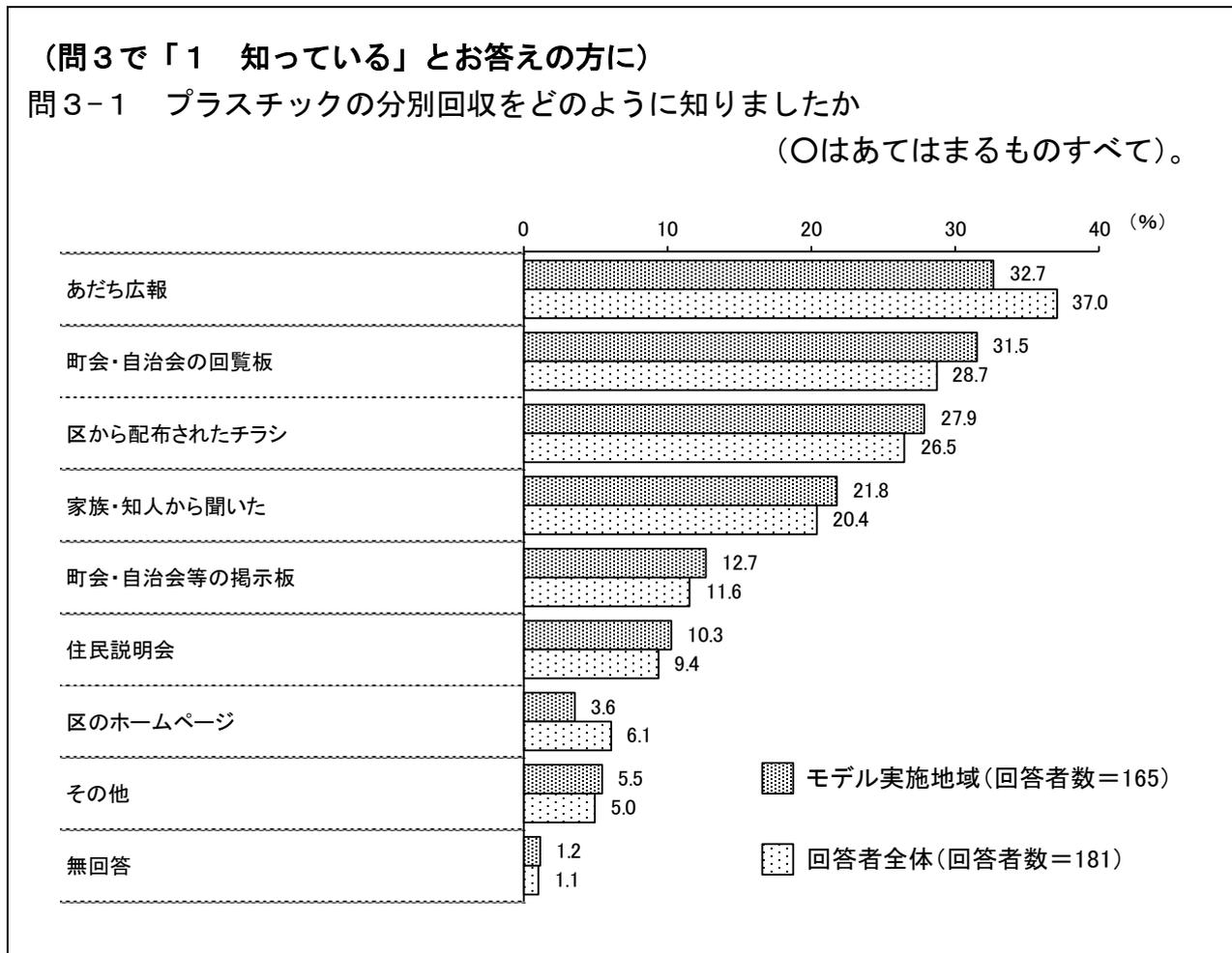
／プラスチック分別回収のモデル実施開始の認知度



プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることの認知度を町会・自治会の加入状況別にみると、「知っている」は「加入している」(42.1%)の方が「加入していない」(15.9%)より26.2ポイント高くなっています。

4 プラスチック分別回収のモデル実施を知ったきっかけ

(1) 単純集計



プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることを“知っている”とお答えの方に、知ったきっかけを聞いたところ、モデル実施地域の回答では「あだち広報」が32.7%で最も高く、次いで「町会・自治会の回覧板」(31.5%)、「区から配布されたチラシ」(27.9%)、「家族・知人から聞いた」(21.8%) などとなっています。

その他の地域を含めた回答者全体の回答でも順位は変わらず、「あだち広報」が37.0%で最も高く、次いで「町会・自治会の回覧板」(28.7%)、「区から配布されたチラシ」(26.5%)、「家族・知人から聞いた」(20.4%) などとなっています。

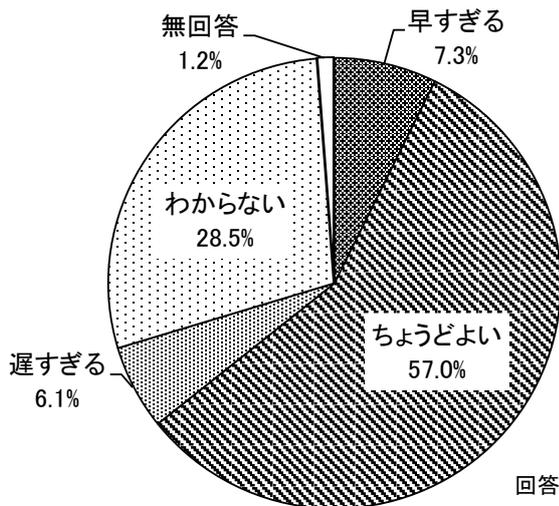
5 区からの情報発信の時期

(1) 単純集計

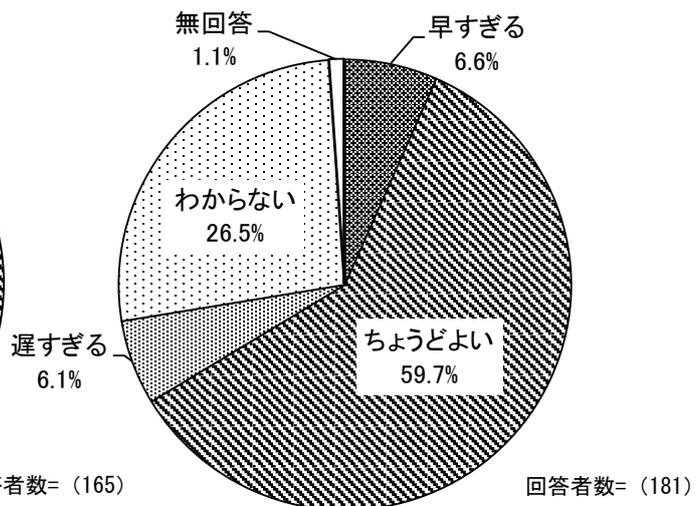
(問3で「1 知っている」とお答えの方に)

問3-2 プラスチック分別回収モデル実施についての区からの情報発信の時期について、どのように感じていますか (〇は1つだけ)。

【モデル実施地域】



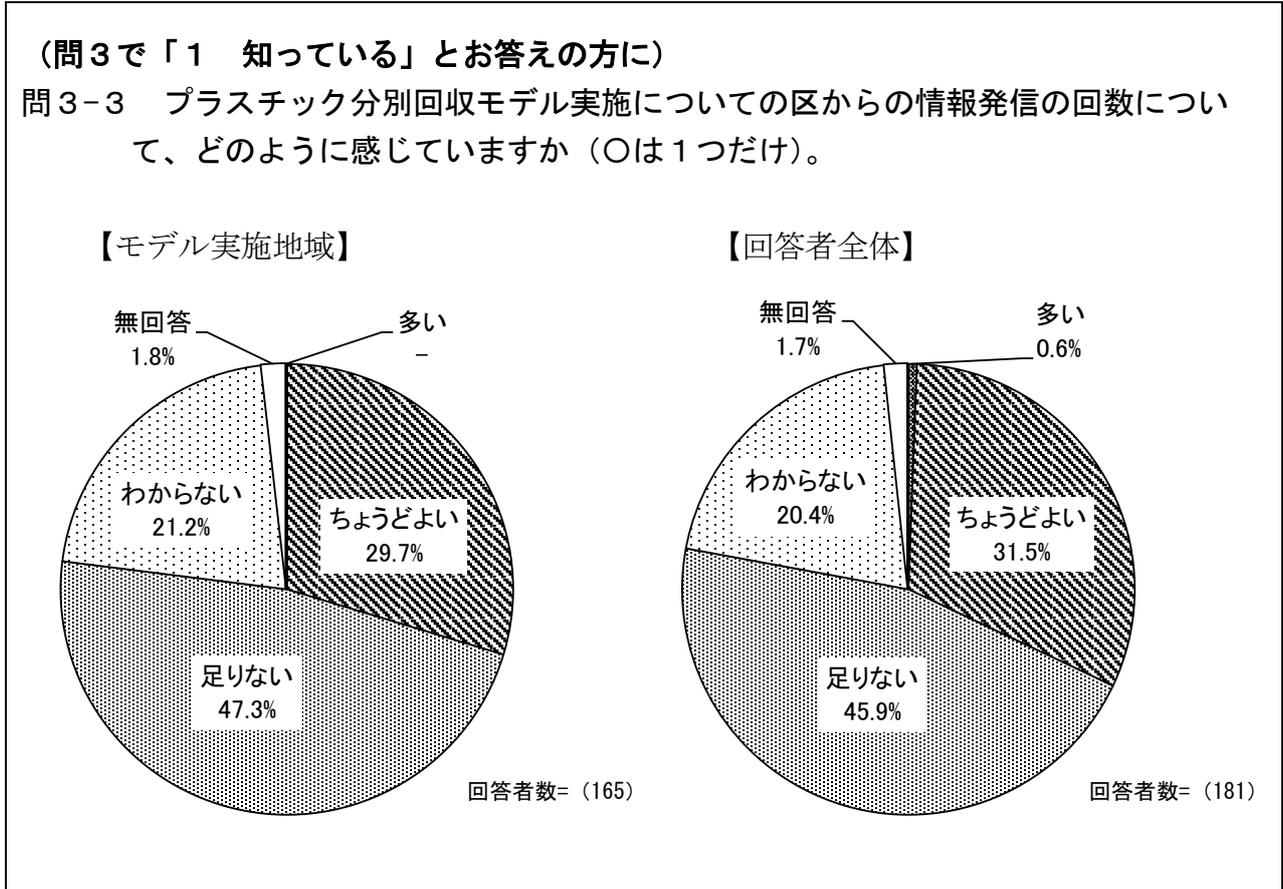
【回答者全体】



プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることを“知っている”とお答えの方に、区からの情報発信の時期についてどう感じているかを聞いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「ちょうどよい」(モデル実施地域 57.0%、回答者全体 59.7%) が最も高く、次いで「わからない」(モデル実施地域 28.5%、回答者全体 26.5%)、「早すぎる」(モデル実施地域 7.3%、回答者全体 6.6%) となっています。

6 区からの情報発信の回数

(1) 単純集計

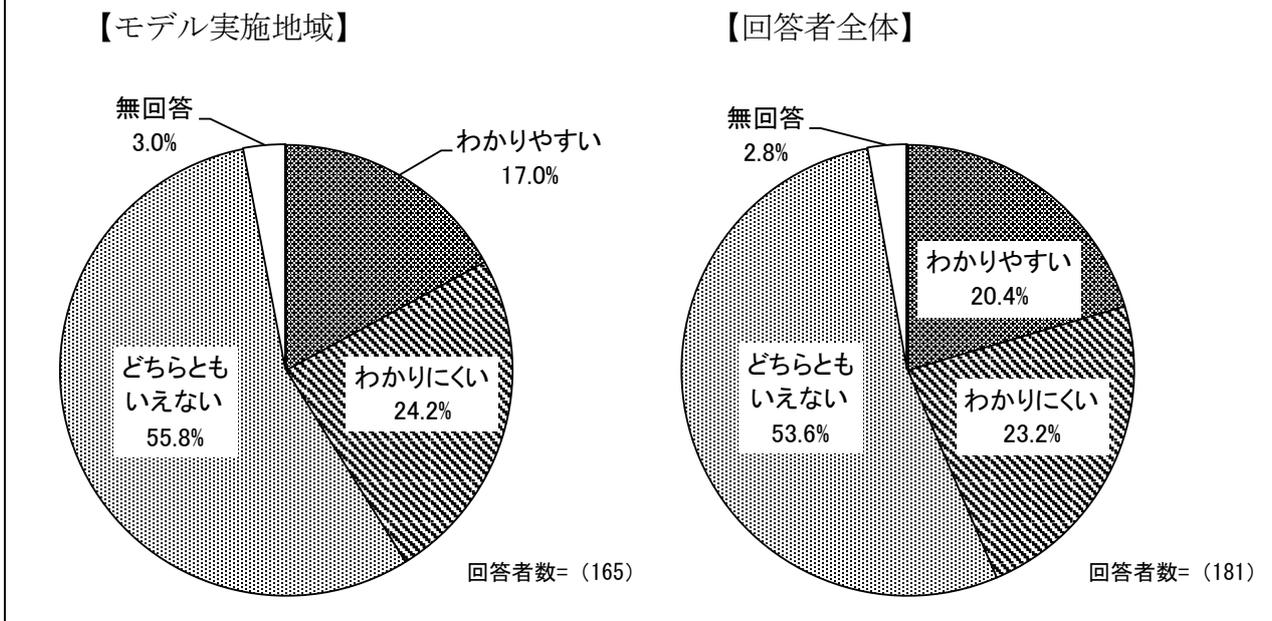


プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることを“知っている”とお答えの方に、区からの情報発信の回数についてどう感じているかを聞いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「不足」(モデル実施地域 47.3%、回答者全体 45.9%) が最も高く、次いで「ちょうどよい」(モデル実施地域 29.7%、回答者全体 31.5%) となっています。

7 区からの情報発信の内容

(1) 単純集計

(問3で「1 知っている」とお答えの方に)
 問3-4 プラスチック分別回収モデル実施についての区からの情報発信の内容について、どのように感じていますか (○は1つだけ)。

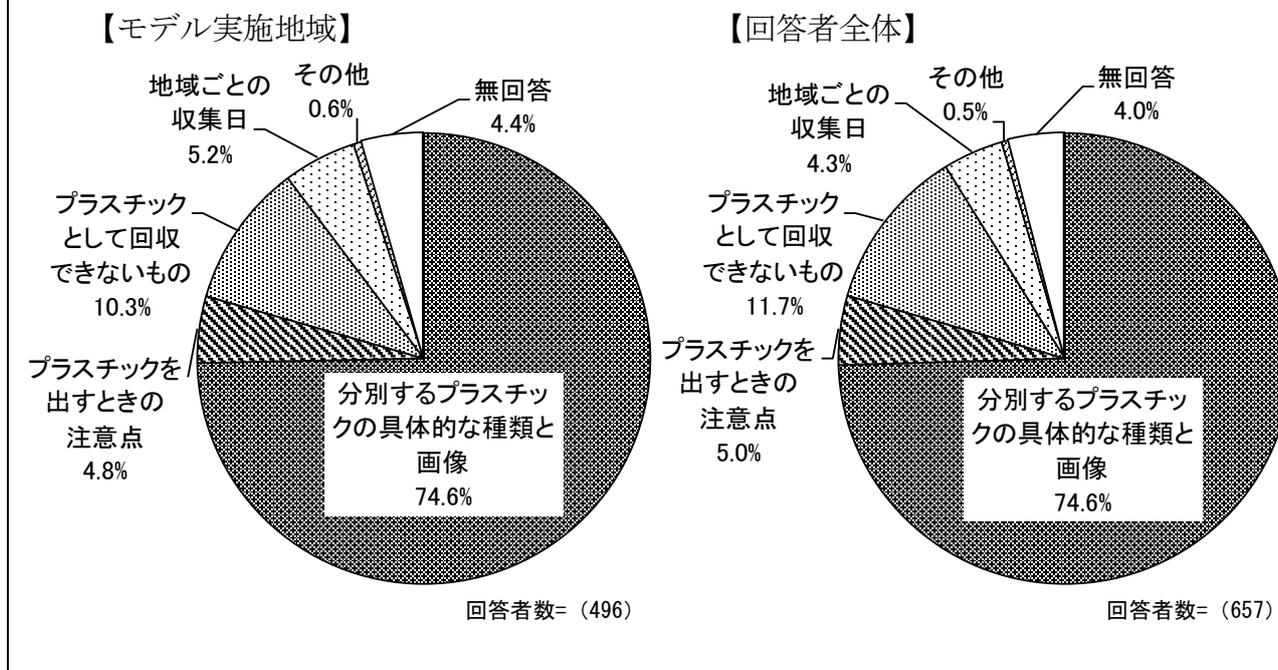


プラスチック分別回収のモデル実施が開始されることを“知っている”とお答えの方に、区からの情報発信の内容についてどう感じているかを聞いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「どちらともいえない」(モデル実施地域 55.8%、回答者全体 53.6%) が最も高く、次いで「わかりにくい」(モデル実施地域 24.2%、回答者全体 23.2%) となっています。

8 プラスチックの分別回収についての情報発信の内容

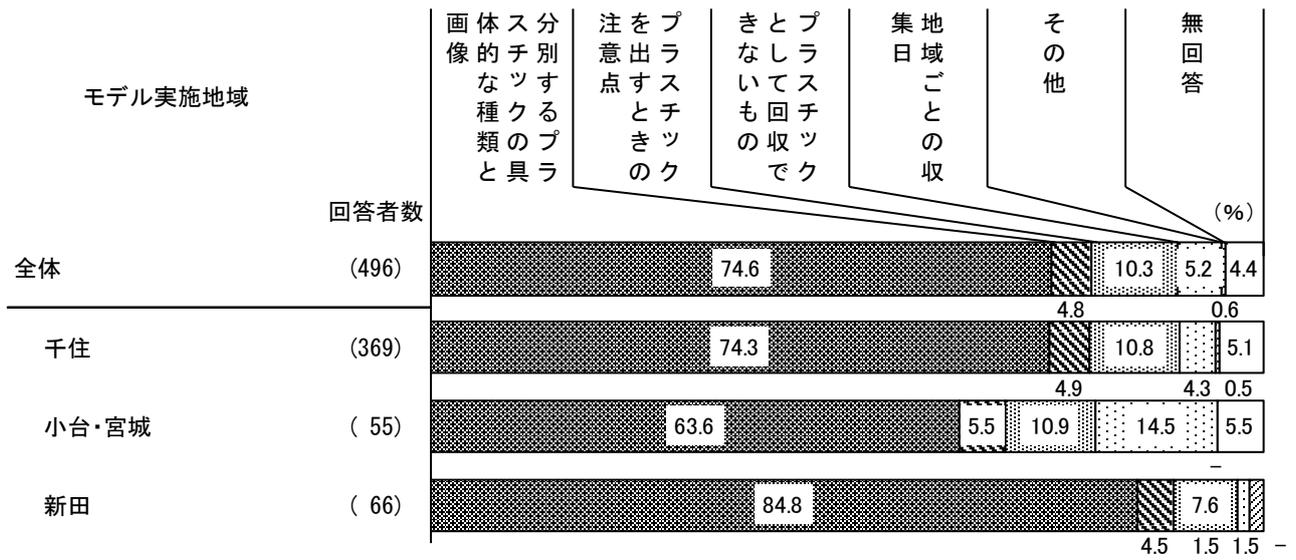
(1) 単純集計

問4 プラスチックの分別回収について情報発信する際は、どのような内容が記載されていると分かりやすいと思いますか（〇は1つだけ）。



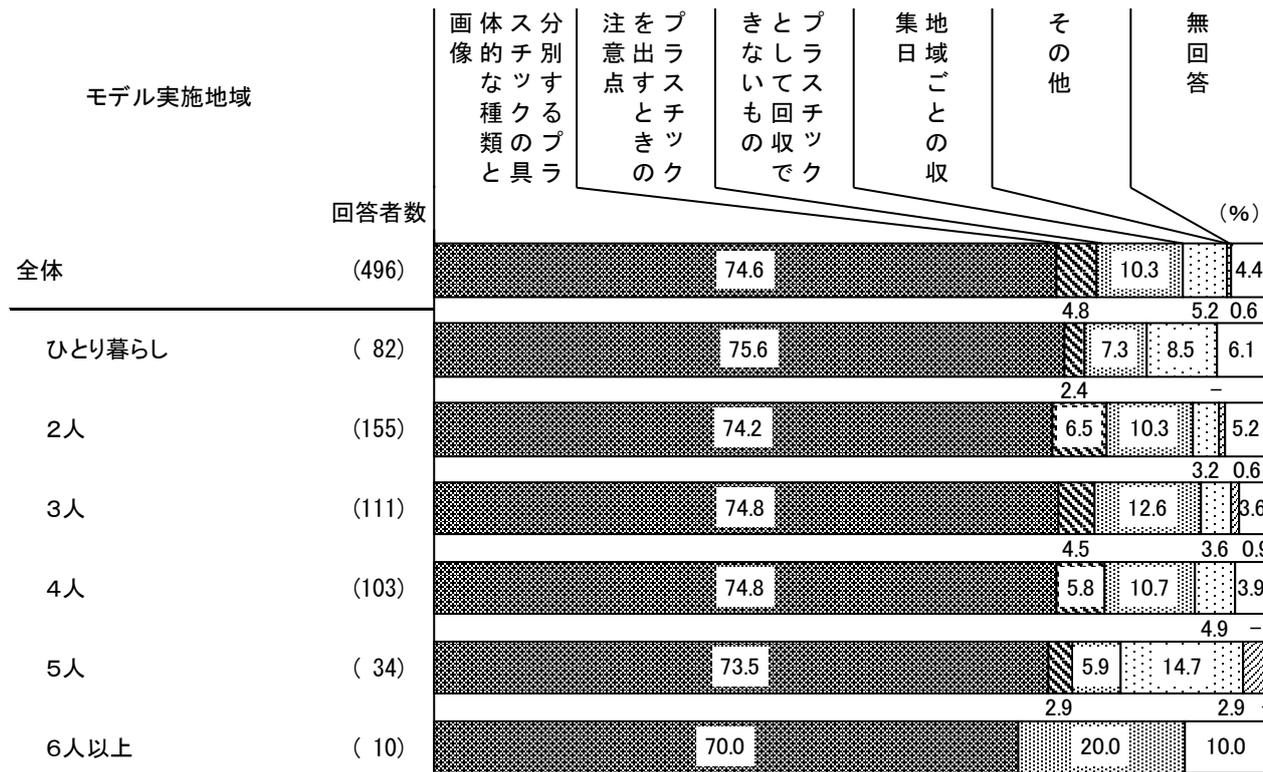
プラスチックの分別回収についての情報発信で伝えてほしい内容は、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「分別するプラスチックの具体的な種類と画像」（モデル実施地域、回答者全体ともに74.6%）が最も高く、次いで「プラスチックとして回収できないもの」（モデル実施地域10.3%、回答者全体11.7%）となっています。

(2) クロス集計・地域別／プラスチックの分別回収についての情報発信の内容



プラスチックの分別回収についての情報発信で伝えてほしい内容をモデル実施地域の地域別にみると、「分別するプラスチックの具体的な種類と画像」は新田地域（84.8%）で高くなっています。

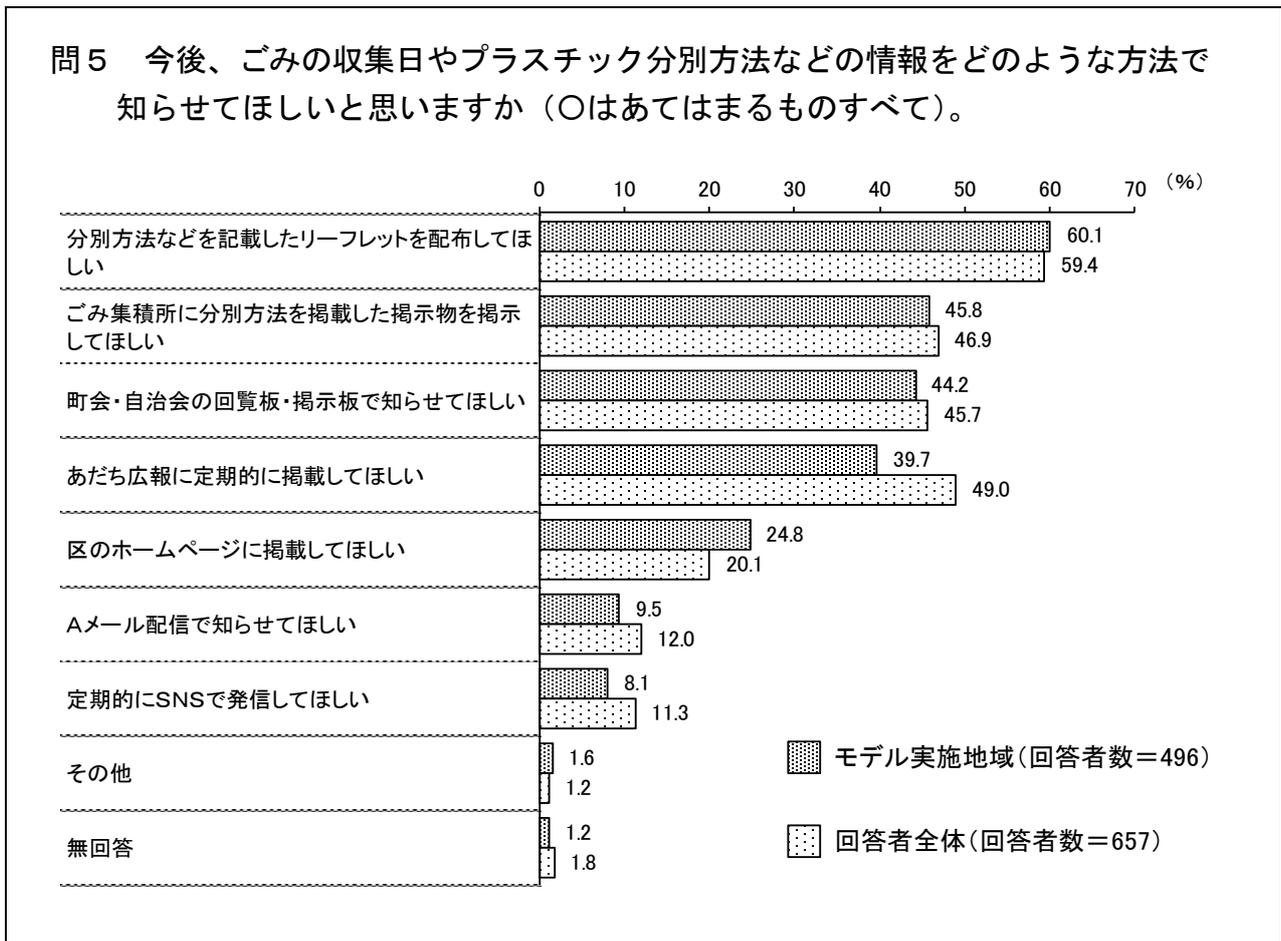
(3) クロス集計・同居家族の人数別／プラスチックの分別回収についての情報発信の内容



同居家族の人数が6人以上はサンプル数が30を下回っているため、あくまで参考値にとどめる必要がありますが、モデル実施地域全体と比べて「地域ごとの収集日」では5人家族 (+9.5ポイント)、ひとり暮らし (+3.3ポイント) が高くなっている一方、「プラスチックとして回収できないもの」では、5人家族 (-4.4ポイント)、ひとり暮らし (-3.0ポイント) が3ポイント以上低くなっています。

9 ごみの収集日やプラスチック分別方法などの周知方法

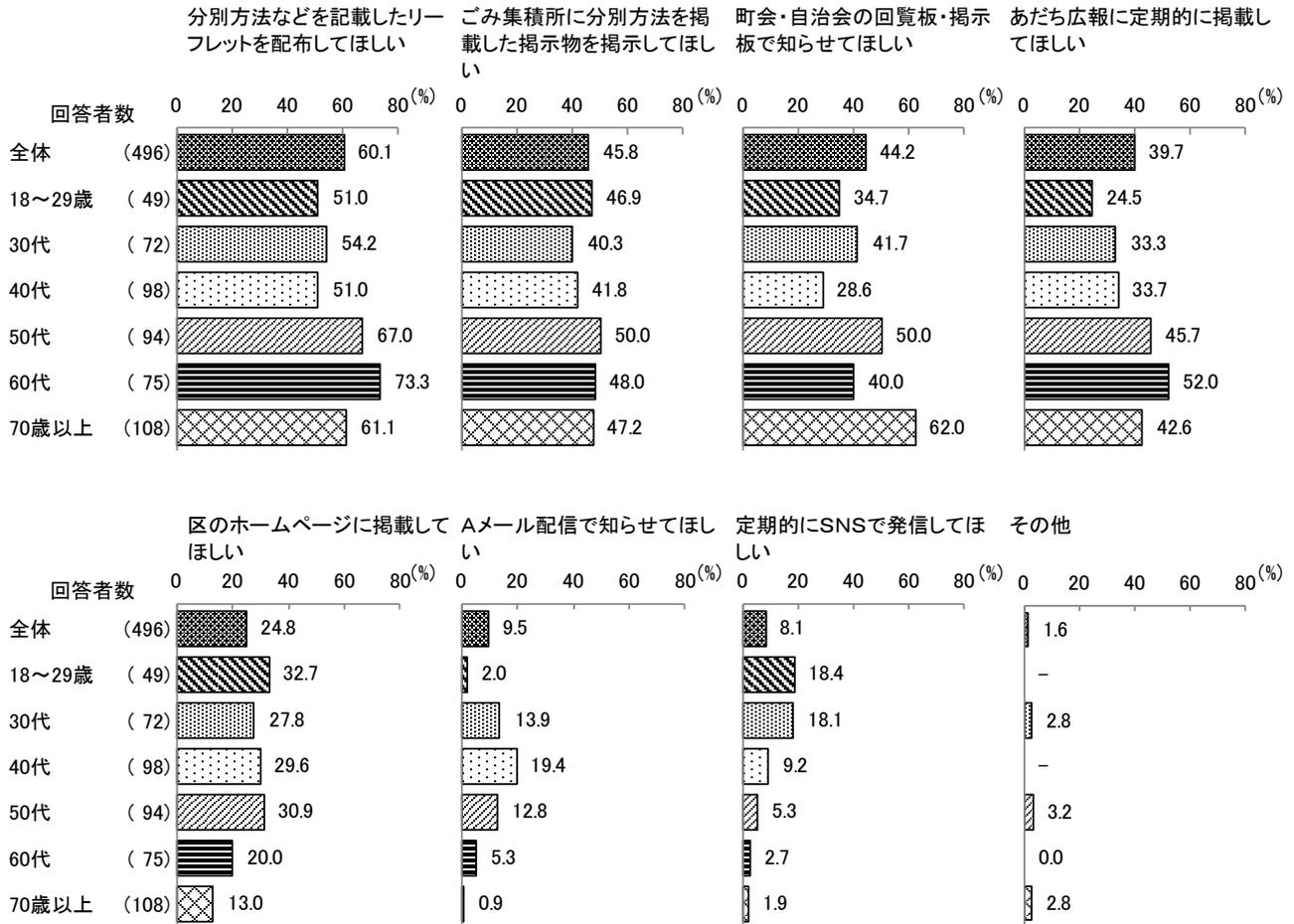
(1) 単純集計



ごみの収集日やプラスチック分別方法などの周知方法は、モデル実施地域の回答では「分別方法などを記載したリーフレットを配布してほしい」が60.1%で最も高く、次いで「ごみ集積所に分別方法を掲載した掲示物を掲示してほしい」(45.8%)、「町会・自治会の回覧板・掲示板で知らせてほしい」(44.2%)、「あだち広報に定期的に掲載してほしい」(39.7%)などとなっています。

その他の地域を含めた回答者全体の回答では「分別方法などを記載したリーフレットを配布してほしい」が59.4%で最も高く、次いで「あだち広報に定期的に掲載してほしい」(49.0%)、「ごみ集積所に分別方法を掲載した掲示物を掲示してほしい」(46.9%)、「町会・自治会の回覧板・掲示板で知らせてほしい」(45.7%)などとなっています。

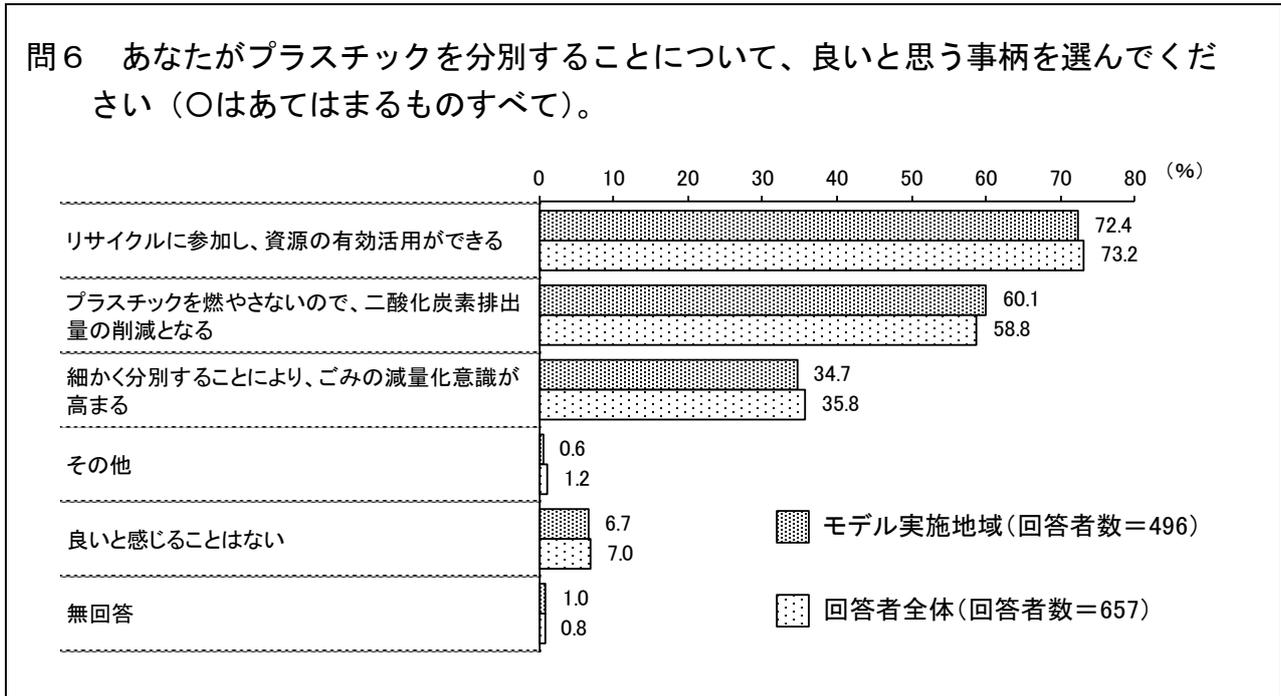
(2) クロス集計・年代別／ごみの収集日やプラスチック分別方法などの周知方法



ごみの収集日やプラスチック分別方法などの周知方法を年代別にみると、「あだち広報に定期的に掲載してほしい」は10代から60代で年代が高くなるにつれて割合が高くなっています。70歳以上では「町会・自治会の回覧板・掲示板で知らせてほしい」が62.0%と他の年代と比べて高くなっています。

10 プラスチックを分別することについて、良いと思う事柄

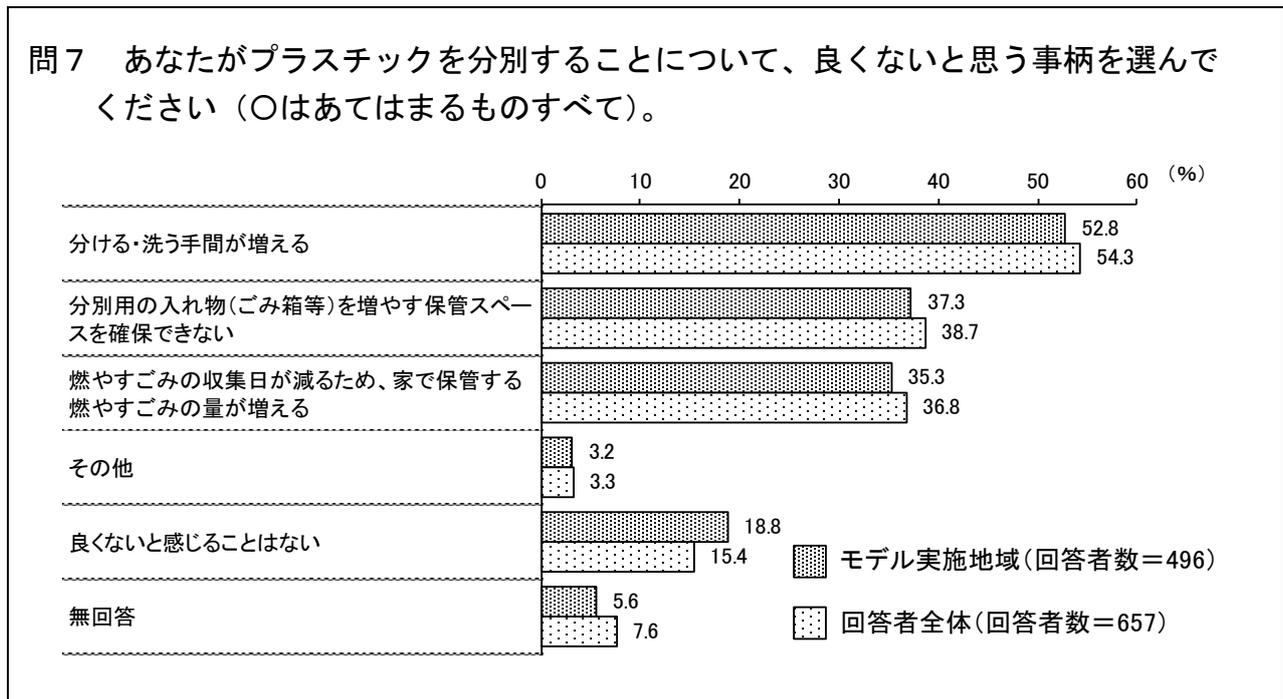
(1) 単純集計



プラスチックを分別することについて、良いと思う事柄は、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「リサイクルに参加し、資源の有効活用ができる」（モデル実施地域 72.4%、回答者全体 73.2%）が最も高く、次いで「プラスチックを燃やさないで、二酸化炭素排出量の削減となる」（モデル実施地域 60.1%、回答者全体 58.8%）となっています。

11 プラスチックを分別することについて、良くないと思う事柄

(1) 単純集計

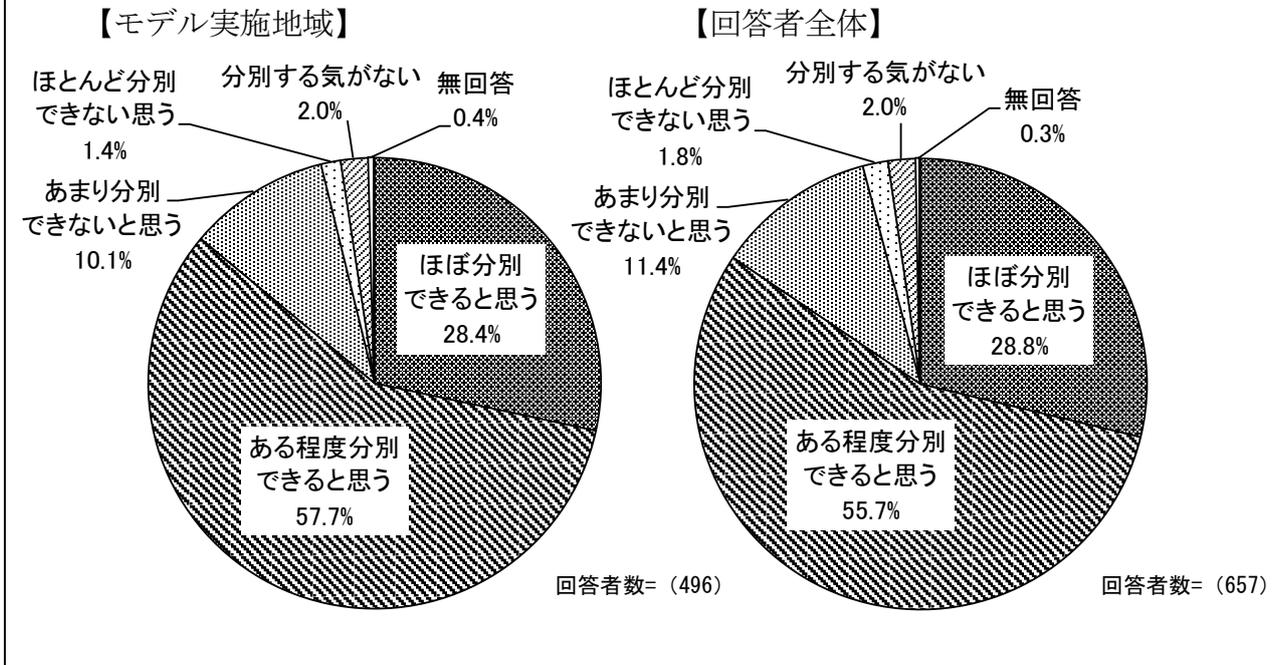


プラスチックを分別することについて、良くないと思う事柄は、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「分ける・洗う手間が増える」（モデル実施地域 52.8%、回答者全体 54.3%）が最も高く、次いで「分別用の入れ物（ゴミ箱等）を増やす保管スペースを確保できない」（モデル実施地域 37.3%、回答者全体 38.7%）、「燃やすごみの収集日が減るため、家で保管する燃やすごみの量が増える」（モデル実施地域 35.3%、回答者全体 36.8%）となっています。

12 プラスチックを分別できる程度

(1) 単純集計

問8 あなたは、プラスチックを分別するとき、どの程度できると思いますか
(○は1つだけ)。

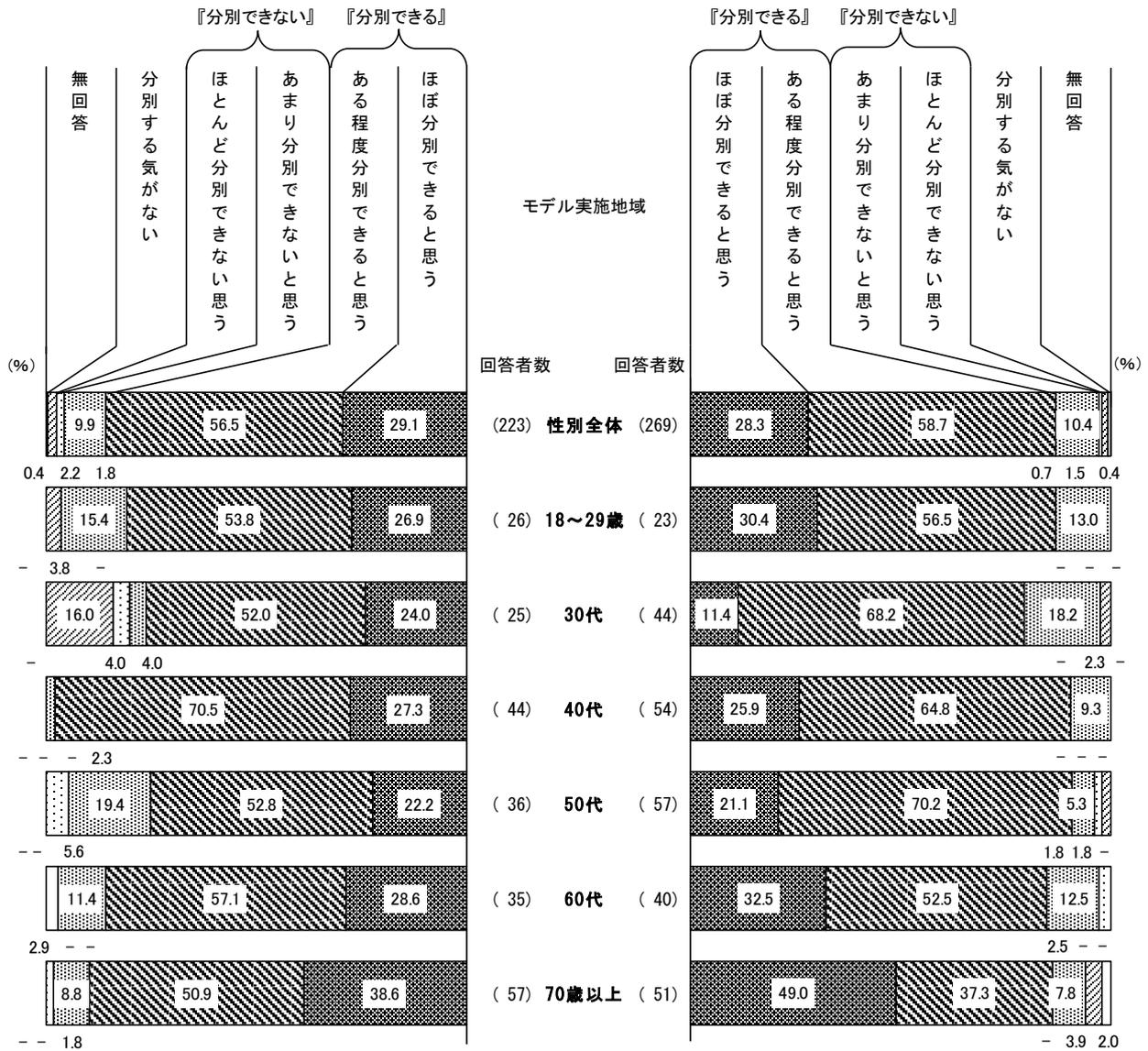


どの程度プラスチックを分別できると思うか聴いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「ある程度分別できると思う」(モデル実施地域 57.7%、回答者全体 55.7%) が最も高く、次いで「ほぼ分別できると思う」(モデル実施地域 28.4%、回答者全体 28.8%) となっています。

(2) クロス集計・性別・性年代別／プラスチックを分別できる程度

【男性】

【女性】



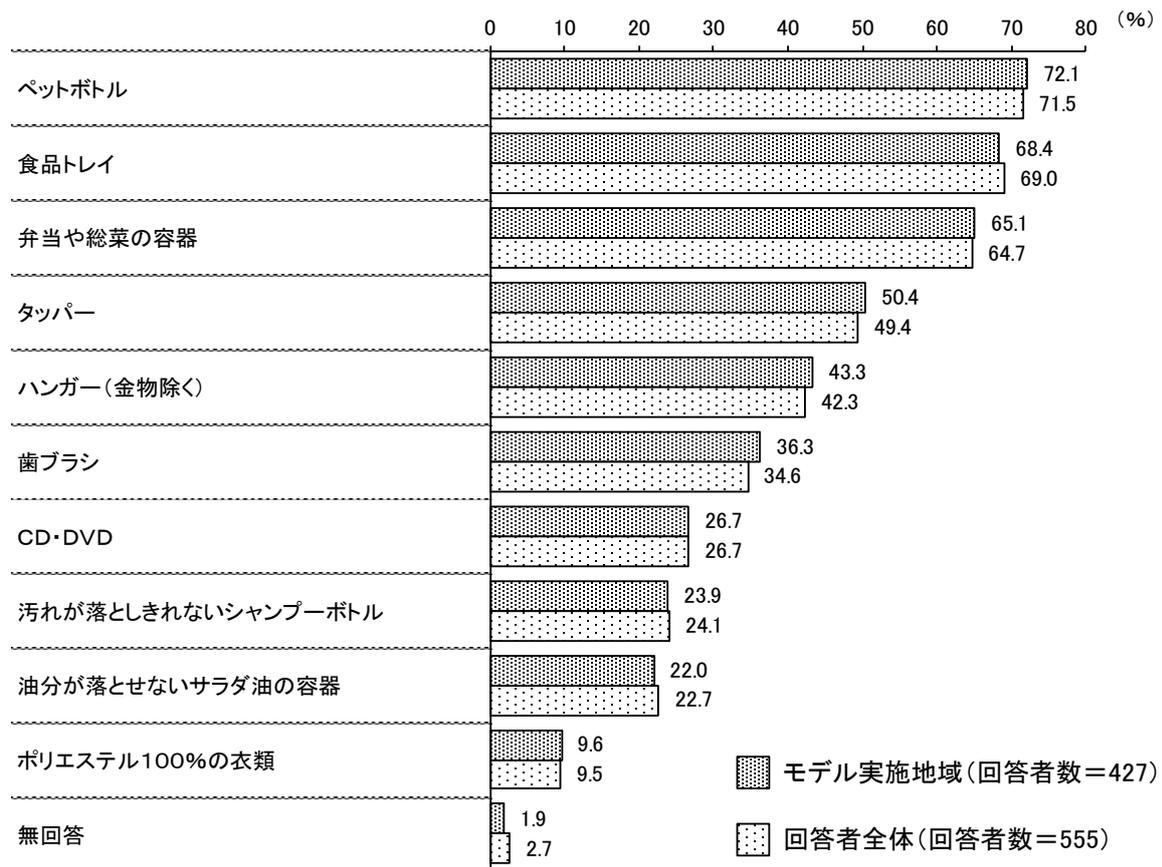
どの程度プラスチックを分別できると思うかについて、性別では大きな差はみられない。いくつかの年代でサンプル数が30を下回っているため、あくまで参考値に留める必要がありますが、性年代別にみると、「ほぼ分別できると思う」に「ある程度分別できると思う」を加えた『分別できる』は男性では40代(97.8%)、女性では50代(91.3%)でそれぞれ高くなっています。

13 知っている「プラスチック」に分別すべき品目

(1) 単純集計

(問8で「1 ほぼ分別できると思う」「2 ある程度分別できると思う」とお答えの方に)

問8-1 「プラスチック」に分別すべき品目として、具体的にあなたが知っているものはどれですか(〇はあてはまるものすべて)。



プラスチックを“ほぼ分別できると思う”、“ある程度分別できると思う”とお答えの方に、知っている「プラスチック」に分別すべき品目を聞いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「ペットボトル」(モデル実施地域 72.1%、回答者全体 71.5%) が最も高く、次いで「食品トレイ」(モデル実施地域 68.4%、回答者全体 69.0%)、「弁当や総菜の容器」(モデル実施地域 65.1%、回答者全体 64.7%)、「タッパー」(モデル実施地域 50.4%、回答者全体 49.4%) となっています。

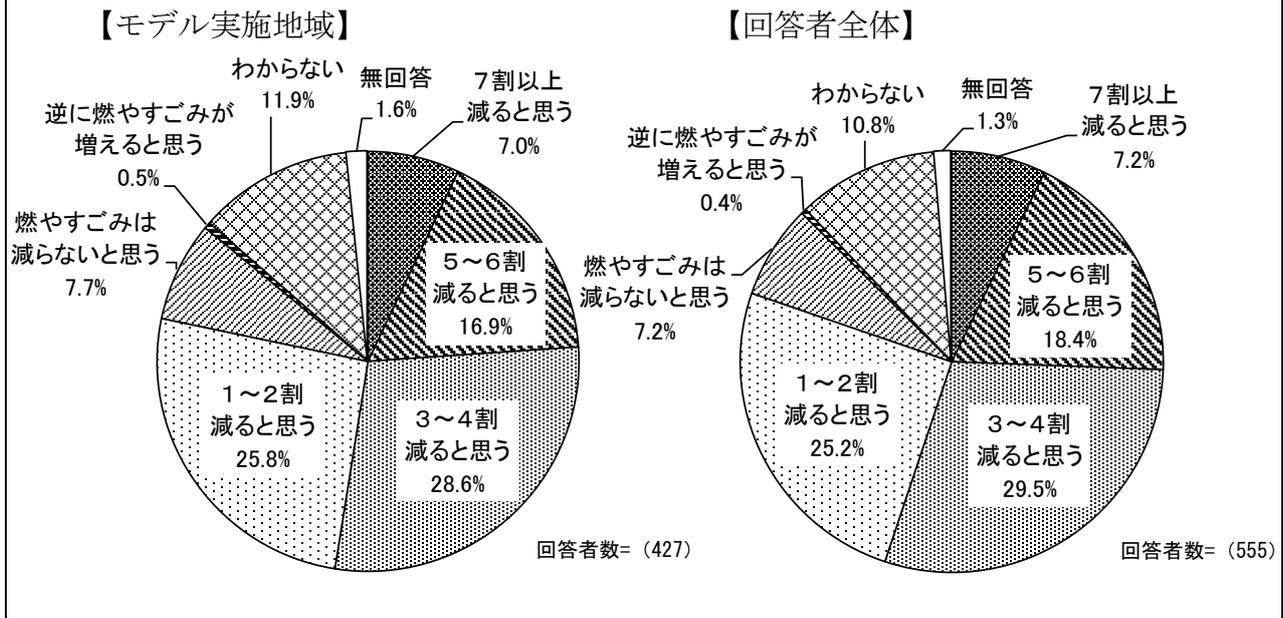
なお、足立区でプラスチックに分別すべき品目は、「食品トレイ」、「弁当や総菜の容器」、「タッパー」、「ハンガー(金物除く)」、「歯ブラシ」、「CD・DVD」、で、最も高かった「ペットボトル」は資源ごみ、「汚れが落としきれないシャンプーボトル」、「油分が落とせないサラダ油の容器」、「ポリエステル100%の衣類」は燃やすごみに分別します。

14 減ると思う燃やすごみの量

(1) 単純集計

(問8で「1 ほぼ分別できると思う」「2 ある程度分別できると思う」とお答えの方に)

問8-2 プラスチックの分別回収が始まった場合、燃やすごみはどれくらい減ると思いますか(〇は1つだけ)。



プラスチックを“ほぼ分別できると思う”、“ある程度分別できると思う”とお答えの方に、プラスチックの分別回収が始まった場合、燃やすごみはどれくらい減ると思うか聞いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「3～4割減ると思う」(モデル実施地域 28.6%、回答者全体 29.5%)が最も高く、次いで「1～2割減ると思う」(モデル実施地域 25.8%、回答者全体 25.2%)、「5～6割減ると思う」(モデル実施地域 16.9%、回答者全体 18.4%)となっています。

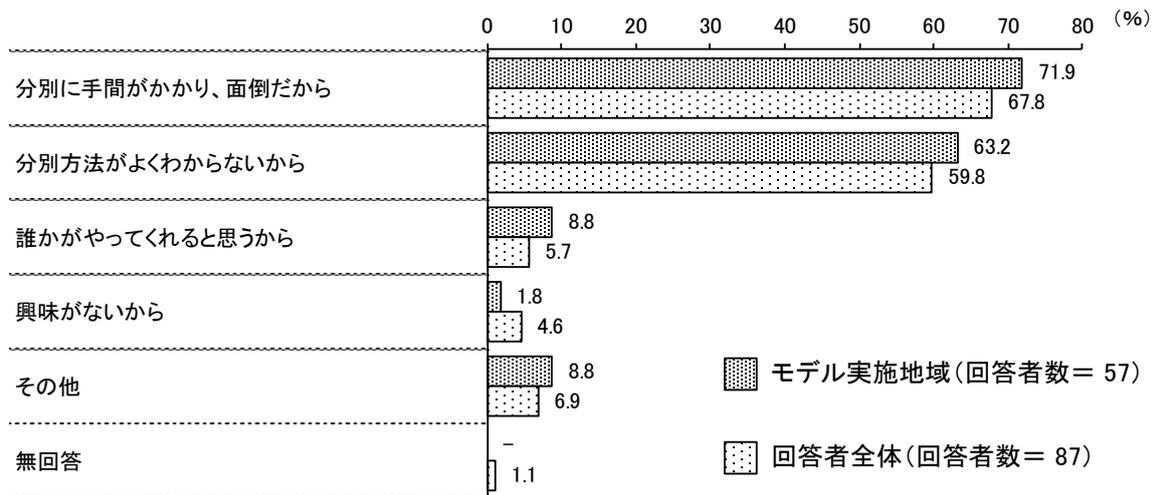
15 プラスチックを分別できないと思う理由

(1) 単純集計

(問8で「3 あまり分別できないと思う」「4 ほとんど分別できないと思う」とお答えの方に)

問8-3 あなたが分別できないと思うのはどのような理由ですか

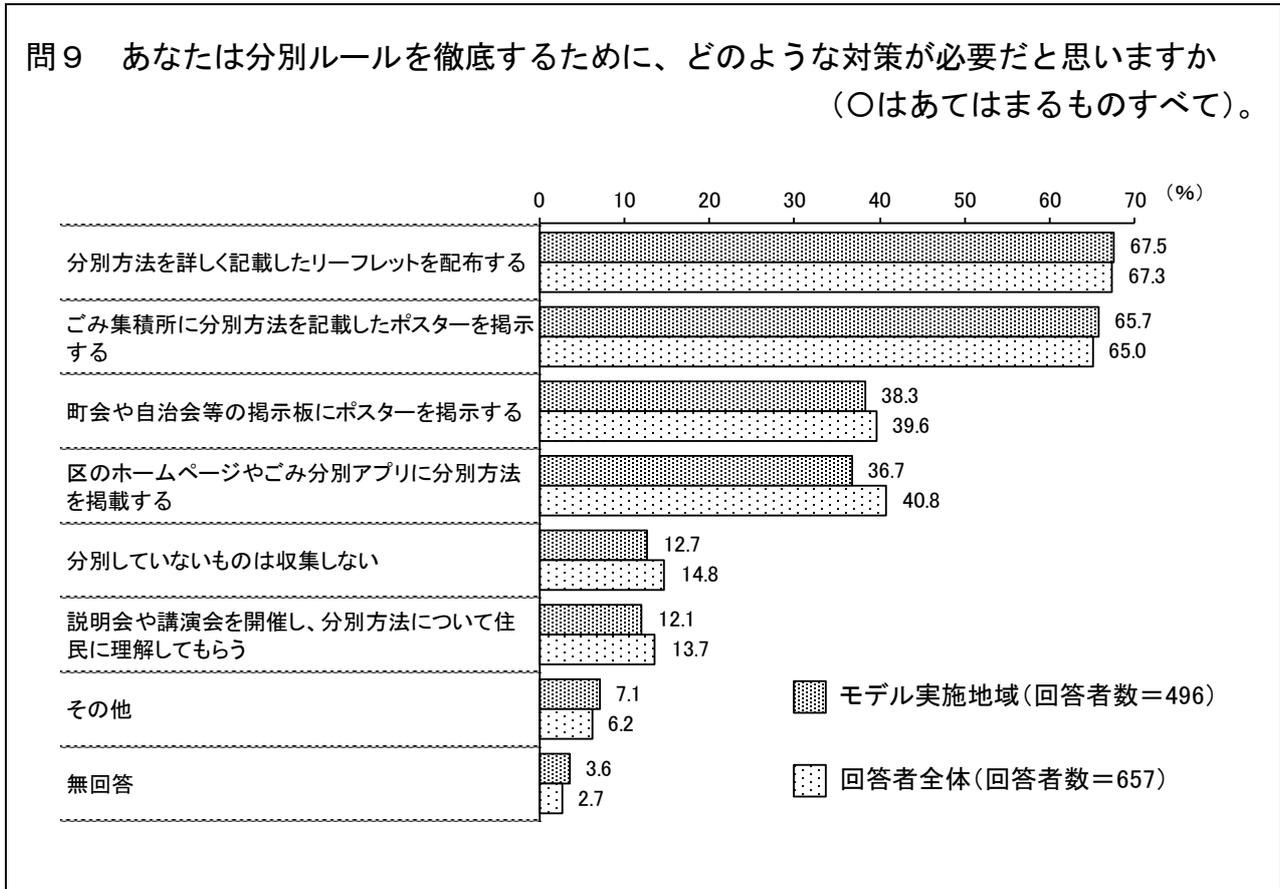
(○はあてはまるものすべて)。



プラスチックを“あまり分別できないと思う”、“ほとんど分別できないと思う”とお答えの方に、そう思う理由を聞いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「分別に手間がかかり、面倒だから」(モデル実施地域 71.9%、回答者全体 67.8%) が最も高く、次いで「分別方法がよくわからないから」(モデル実施地域 63.2%、回答者全体 59.8%) となっています。

16 分別ルールを徹底するために必要だと思う対策

(1) 単純集計



分別ルールを徹底するために必要だと思う対策について聞いたところ、モデル実施地域の回答では「分別方法を詳しく記載したリーフレットを配布する」が67.5%で最も高く、次いで「ごみ集積所に分別方法を記載したポスターを掲示する」(65.7%)、「町会や自治会等の掲示板にポスターを掲示する」(38.3%)などとなっています。

その他の地域を含めた回答者全体の回答では「分別方法を詳しく記載したリーフレットを配布する」が67.3%で最も高く、次いで「ごみ集積所に分別方法を記載したポスターを掲示する」(65.0%)、「区のホームページやごみ分別アプリに分別方法を掲載する」(40.8%)などとなっています。

17 ごみ出しに関することについてのご意見・ご要望

(1) 単純集計

問10 その他ごみ出しに関することについてのご意見、ご要望をお書きください
(ご自由にお書きください)。

回答者全体

※237名より延べ299件の回答

【ごみ出しに関することについて（内容別件数）】

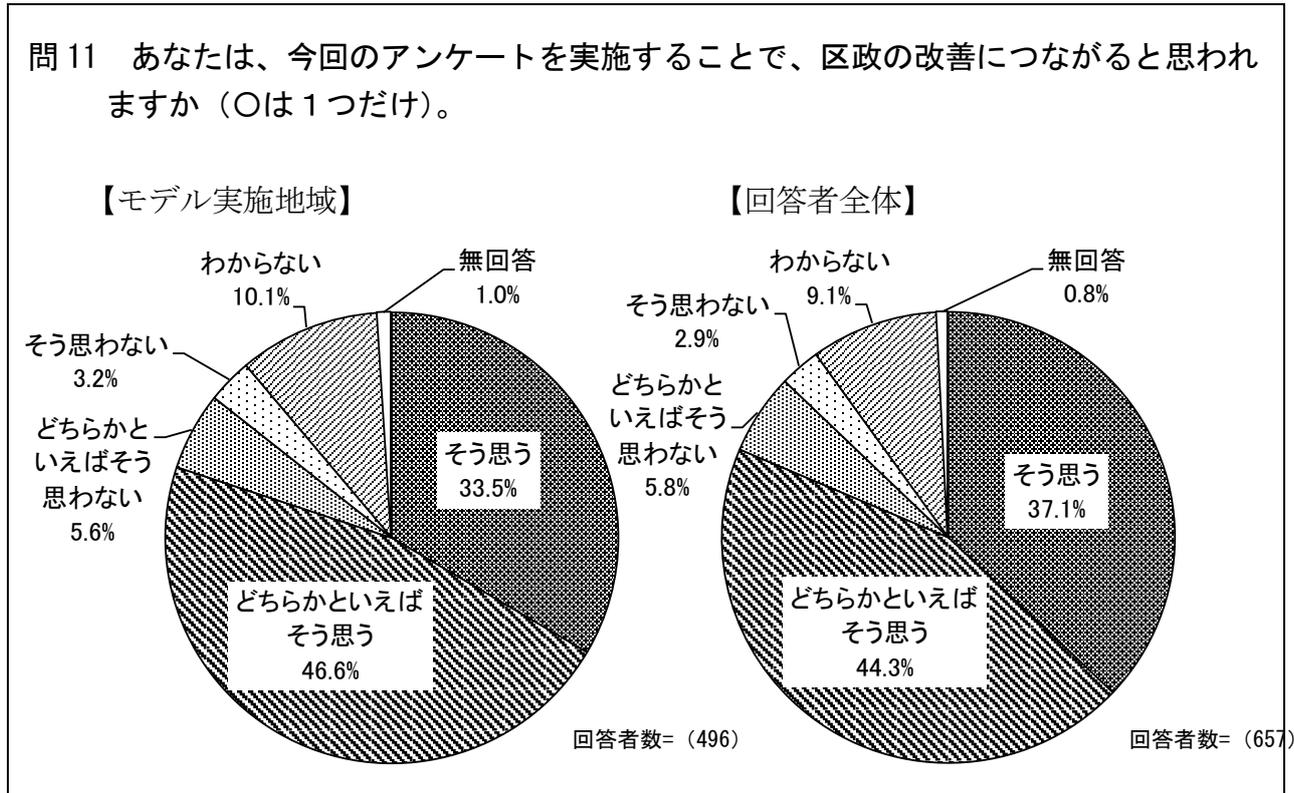
分別等ルールの周知・啓発	90件
分別のあり方、賛否	66件
分別等ルールを守らない人が存在すること	42件
ゴミ出しシステム全般について	34件
ゴミ出し場や地域について	30件
収集システム・清掃員への感謝、良好な状況	17件
その他	20件

その他ごみ出しに関することについてのご意見、ご要望を自由記述で聞いたところ、その他の地域を含めた回答者全体の回答では237名から延べ299件のご意見をいただきました。

ご意見を内容別に分類したところ、「分別等ルールの周知・啓蒙」が90件で最も多く、次いで「分別のあり方、賛否」(66件)、「分別等ルールを守らない人が存在すること」(42件)、「ゴミ出しシステム全般について」(34件)、「ゴミ出し場や地域について」(30件)、「収集システム・清掃員への感謝、良好な状況」(17件)などとなっています。

18 アンケートの実施が区政の改善につながるかの考え

(1) 単純集計



今回のアンケートを実施することで区政の改善につながると思うかについて聞いたところ、モデル実施地域とその他の地域を含めた回答者全体の構成はほぼ同じで、「どちらともいえばそう思う」（モデル実施地域 46.6%、回答者全体 44.3%）が最も高く、次いで「そう思う」（モデル実施地域 33.5%、回答者全体 37.1%）となっています。

第4章 調査票

令和5年度 第2回 足立区政に関する世論調査（小規模調査） 《プラスチック分別回収について》

ご協力のお願い

皆さまには日頃から区政にご支援ご協力いただき、心より御礼申し上げます。

この調査は、令和6年4月からプラスチックの分別回収が開始される地域（千住・小台・宮城・新田）にお住いの方を対象に、分別に関する意識について調査し、資源回収事業の促進を図ることを目的に行うものです。

実施にあたりまして、千住・小台・宮城・新田にお住いの18歳以上の方々から無作為に1,000名を選ばせていただきました。調査結果はすべて個人が特定できないように統計的に処理し、お名前などが公表されることは一切ありません。

回答にかかる時間は約10分です。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和5年12月

足立区長 近藤やよい

□□ ご回答にあたって □□

- 1 調査の回答は、あて名のご本人がお答えください。
- 2 質問によっては、○印は（1つだけ）や（あてはまるものすべて）というように数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをお読みください。
- 3 回答が「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。
- 4 回答は、《インターネット》または《郵送》のいずれかの方法でお願いいたします。ご回答いただいた方には謝礼として、**500円のQUOカード**をお送りします。
- 5 本調査に関するお問い合わせ先
お問い合わせコールあだち TEL：03-3880-0039
受付時間：午前8時～午後8時／1月1日から3日を除く毎日

ご回答期限：令和6年1月12日

あなたの回答用ID

インターネットによる回答をされる場合、IDを入れ間違えてしまいますと、謝礼をお送りすることができなくなりますので、必ず入力後に確認をお願いいたします。



足立区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています



インターネットによる回答方法



- 1 下記 URL または二次元コードを読み込んで、「足立区オンライン申請システム」の回答専用ページにアクセスしてください。

<https://shinsei.city.adachi.tokyo.jp/apply/guide/1541>

※ パソコンから URL を入力して検索する場合、Yahoo!や Google 等の検索バーではなく、ブラウザのアドレスバーに URL を直接入力してください。

- 2 ログインし、順番に回答してください。

(1) 「足立区オンライン申請システム」のログインページが展開します。

(2) アカウントIDをお持ちの方はログインして回答してください。

(3) アカウントIDをお持ちでない方は、「アカウント登録しないで続ける場合」をクリックしてログインしてください。

- 3 回答終了

すべての回答が終わりましたら、「内容を確認する」をクリックし、入力内容を確認してください。確認終了後「申請完了」をクリックしてください。これで終了となります。

■ 注意事項 ■

(1) 回答は途中保存が可能です。中断される場合は「保存して後で申請する」をクリックし、再開する場合は、途中保存をした際に届いたメールに添付されているURLから回答フォームへログインしてください。入力が完了しているページのみ保存されます。(例) STEP2の途中で中断保存した場合は、STEP1は保存されSTEP2から再度入力します。

(2) 回答中にブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

(3) 通信サービスの接続料金は利用者様の負担となります。

(4) インターネットで回答された方は、紙の調査票を返送していただく必要はありません。

郵送による回答方法

- 1 調査票に直接回答してください。

(1) あてはまる番号に直接○印を付けてください。

(2) ボールペン記載で誤った場合、二重線で消し、正しい回答に○を付けてください。

- 2 調査票を郵送してください。

回答が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に調査票を入れて、令和6年1月12日までに投かんしてください。期日を過ぎてから投かんいただいた場合、謝礼をお送りすることはできません。何卒ご了承ください。

■ 注意事項 ■

返信用封筒には、住所・お名前を記入なさないようお願いします。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。（回答者数=657）

1 男性	40.6%	2 女性	58.8
3 どちらでもない	0.2	4 答えたくない	0.5

※区政モニターの方には聴いていない設問ですが、事前に情報提供いただいている内容を反映しています。

F 2 あなたの年代は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。（回答者数=657）

1 10代	2.3%	3 30代	16.7	5 50代	19.5	7 70代以上	
2 20代	8.4	4 40代	21.0	6 60代	13.9		18.3

※区政モニターの方には聴いていない設問ですが、事前に情報提供いただいている内容を反映しています。

F 3 あなたのお住まい（住居）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

（回答者数=657）

1 一戸建て持家	36.7%	6 社宅・公務員住宅	0.3
2 一戸建て借家	3.0	7 間借り・住み込み	0.3
3 分譲マンション	32.4	8 その他（ ）	0.3
4 賃貸マンション・アパート	20.4	無回答	0.1
5 都市再生機構（旧公団）・ 公社・都営住宅・区営住宅	6.4		

F 4 あなたを含め、同居の家族の人数は何人ですか（○は1つだけ）。（回答者数=657）

1 ひとり暮らし	15.7%	4 4人	21.3	無回答	0.3
2 2人	31.1	5 5人	6.8		
3 3人	23.0	6 6人以上	1.8		

（F 4で「1 ひとり暮らし」以外とお答えの方に）

F 4-1 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか

（○はあてはまるものすべて）。（回答者数=552）

1 配偶者	67.4%	4 子ども	46.6	7 その他（ ）	
2 父・母	15.9	5 孫	0.5		3.6
3 祖父・祖母	0.9	6 兄弟・姉妹	8.0	無回答	9.6

F 5 現在、あなたは町会・自治会に加入していますか（○は1つだけ）。（回答者数=657）

1 加入している	60.6%	2 加入していない	38.8	無回答	0.6
----------	-------	-----------	------	-----	-----

ごみ出しの現状について、お伺いします

問1 あなたが、普段、家庭ごみを出しているのは、どこですか（〇は1つだけ）。

（回答者数=657）

1	地域のごみ集積所	40.3%	3	その他（ ）	2.6
2	マンション・アパート専用の ごみ集積所	56.8		無回答	0.3

問2 あなたは、ごみ・資源の分別に悩んだ際、何を参考にしていますか

（〇はあてはまるものすべて）。（回答者数=657）

1	「資源の出し方 ごみの出し方」リーフレット	62.1%	4	家族や知人等に聞く	19.5
			5	その他（ ）	2.6
2	ごみ分別アプリ	8.1	6	特に悩んだことはない	6.5
3	インターネットで検索	40.5		無回答	0.3

プラスチック分別回収のモデル実施の情報発信について、お伺いします

問3 あなたは、令和6年4月から、千住・小台・宮城・新田の4地域でプラスチック分別回収のモデル実施が開始されることを知っていますか（〇は1つだけ）。

（回答者数=657）

1 知っている	27.5%	2 知らない	72.1	無回答	0.3
---------	-------	--------	------	-----	-----

（問3で「1 知っている」とお答えの方に）

問3-1 プラスチックの分別回収をどのように知りましたか

（〇はあてはまるものすべて）。（回答者数=181）

1 あだち広報	37.0%	5 区から配布されたチラシ	26.5
2 区のホームページ	6.1	6 住民説明会	9.4
3 町会・自治会の回覧板	28.7	7 家族・知人から聞いた	20.4
4 町会・自治会等の掲示板	11.6	8 その他（ ）	5.0
		無回答	1.1

（同様に、問3で「1 知っている」とお答えの方に）

問3-2 プラスチック分別回収モデル実施についての区からの情報発信の時期について、どのように感じていますか（〇は1つだけ）。（回答者数=181）

※ プラスチック分別回収のモデル実施については、令和5年5月からあだち広報、区のホームページや町会・自治会の回覧板等にてお知らせするとともに、令和5年10月から住民説明会を実施しました。

1 早すぎる	6.6%	3 遅すぎる	6.1
2 ちょうどよい	59.7	4 わからない	26.5
		無回答	1.1

（同様に、問3で「1 知っている」とお答えの方に）

問3-3 プラスチック分別回収モデル実施についての区からの情報発信の回数について、どのように感じていますか（〇は1つだけ）。（回答者数=181）

1 多い	0.6%	3 足りない	45.9
2 ちょうどよい	31.5	4 わからない	20.4
		無回答	1.7

(同様に、問3で「1 知っている」とお答えの方に)

問3-4 プラスチック分別回収モデル実施についての区からの情報発信の内容について、どのように感じていますか (〇は1つだけ)。(回答者数=181)

1 わかりやすい	20.4%	3 どちらともいえない	53.6
2 わかりにくい	23.2	無回答	2.8

問4 プラスチックの分別回収について情報発信する際は、どのような内容が記載されていると分かりやすいと思いますか (〇は1つだけ)。(回答者数=657)

1 分別するプラスチックの具体的な種類と画像	74.6%	4 地域ごとの収集日	4.3
2 プラスチックを出すときの注意点	5.0	5 その他 ()	0.5
3 プラスチックとして回収できないもの	11.7	無回答	4.0

問5 今後、ごみの収集日やプラスチック分別方法などの情報をどのような方法で知らせてほしいと思いますか (〇はあてはまるものすべて)。(回答者数=657)

1 あだち広報に定期的に掲載してほしい	49.0%	5 町会・自治会の回覧板・掲示板で知らせてほしい	45.7
2 Aメール配信で知らせてほしい	12.0	6 分別方法などを記載したリーフレットを配布してほしい	59.4
3 定期的に SNS で発信してほしい	11.3	7 ごみ集積所に分別方法を掲載した掲示物を掲示してほしい	46.9
4 区のホームページに掲載してほしい	20.1	8 その他 ()	1.2
		無回答	1.8

ミニコラム ～分別回収への転換理由～

日本は、ペットボトルのリサイクル率は85%と高水準な一方で、実は…



その他のプラスチック



- ① ほとんどを焼却して熱回収 (サーマルリサイクル)
- ② 素材としてのリサイクルは全体の2割程度
- ③ 使い捨てプラスチックの消費量は世界2位

焼却からリサイクルへ転換し、新たなプラスチックを生み出さない努力が必要

プラスチックの分別について、お伺いします

問6 あなたがプラスチックを分別することについて、良いと思う事柄を選んでください（〇はあてはまるものすべて）。（回答者数=657）

1	リサイクルに参加し、資源の有効活用ができる	73.2%	3	細かく分別することにより、ごみの減量化意識が高まる	35.8
2	プラスチックを燃やさない ので、二酸化炭素排出量の削減となる	58.8	4	その他（ ）	3.3
			5	良いと感じることはない	15.4
				無回答	7.6

問7 あなたがプラスチックを分別することについて、良くないと思う事柄を選んでください（〇はあてはまるものすべて）。（回答者数=657）

1	分ける・洗う手間が増える	54.3%	3	燃やすごみの収集日が減るため、家で保管する燃やすごみの量が増える	36.8
2	分別用の入れ物（ごみ箱等）を増やす保管スペースを確保できない	38.7	4	その他（ ）	3.3
			5	良くないと感じることはない	15.4
				無回答	7.6

問8 あなたは、プラスチックを分別するとき、どの程度できると思いますか（〇は1つだけ）。（回答者数=657）

1	ほぼ分別できると思う	28.8%	4	ほとんど分別できないと思う	1.8
2	ある程度分別できると思う	55.7	5	分別する気がない	2.0
3	あまり分別できないと思う	11.4		無回答	0.3

「1 ほぼ分別できると思う」、「2 ある程度分別できると思う」と回答された方は問8-1及び問8-2へ、「3 あまり分別できないと思う」、「4 ほとんど分別できないと思う」と回答された方は問8-3へ、「5 分別する気がない」と回答された方は問9へお進みください。

(問8で「1 ほぼ分別できると思う」「2 ある程度分別できると思う」とお答えの方に)

問8-1 「プラスチック」に分別すべき品目として、具体的にあなたが知っているものはどれですか(○はあてはまるものすべて)。(回答者数=555)

1	ペットボトル	71.5%	5	汚れが落としきれないジャンプーボトル	24.1	8	ポリエステル100%の衣類	9.5
2	食品トレイ	69.0	6	タッパー	49.4	9	歯ブラシ	34.6
3	弁当や総菜の容器	64.7	7	ハンガー	42.3	10	CD・DVD	26.7
4	油分が落とせないサラダ油の容器	22.7					無回答	2.7
(金物除く)								

(同様に、問8で「1 ほぼ分別できると思う」「2 ある程度分別できると思う」とお答えの方に)

問8-2 プラスチックの分別回収が始まった場合、燃やすごみはどれくらい減ると思いますか(○は1つだけ)。(回答者数=555)

1	7割以上減ると思う	7.2%	5	燃やすごみは減らないと思う	7.2
2	5~6割減ると思う	18.4	6	逆に燃やすごみが増えると思う	0.4
3	3~4割減ると思う	29.5	7	わからない	10.8
4	1~2割減ると思う	25.2		無回答	1.3

→ 問9にお進みください。

(問8で「3 あまり分別できないと思う」「4 ほとんど分別できないと思う」とお答えの方に)

問8-3 あなたが分別できないと思うのはどのような理由ですか

(○はあてはまるものすべて)。(回答者数=87)

1	分別方法がよくわからないから	59.8%	4	興味がないから	4.6
2	分別に手間がかかり、面倒だから	67.8	5	その他()	6.9
3	誰かがやってくれると思うから	5.7		無回答	1.1

問9 あなたは分別ルールを徹底するために、どのような対策が必要だと思いますか

(〇はあてはまるものすべて)。(回答者数=657)

1	説明会や講演会を開催し、分別方法について住民に理解してもらう	13.7%
2	町会や自治会等の掲示板にポスターを掲示する	39.6
3	ごみ集積所に分別方法を記載したポスターを掲示する	65.0
4	分別方法を詳しく記載したリーフレットを配布する	67.3
5	区のホームページやごみ分別アプリに分別方法を掲載する	40.8
6	分別していないものは収集しない	14.8
7	その他()	6.2
	無回答	2.7

問10 その他ごみ出しに関することについてのご意見、ご要望をお書きください

(ご自由にお書きください)。

問11 多数の質問にお答えいただきありがとうございました。最後におうかがいします。

あなたは、今回のアンケートを実施することで、区政の改善につながると思われますか(〇は1つだけ)。(回答者数=657)

1	そう思う	37.1%	4	そう思わない	2.9
2	どちらかといえばそう思う	44.3		(理由:)	
3	どちらかといえばそう思わない	5.8	5	わからない	9.1
				無回答	0.8

～足立清掃事務所からのお願い～

「プラスチックの分別回収」および「ごみ・資源の収集・回収日の変更」にご協力をお願いします

足立区の地球温暖化対策を推進するキャラクター



リリー ミリー ドリー



知ると分かる。
すると変わる。

SDGs MODEL ADACHI

